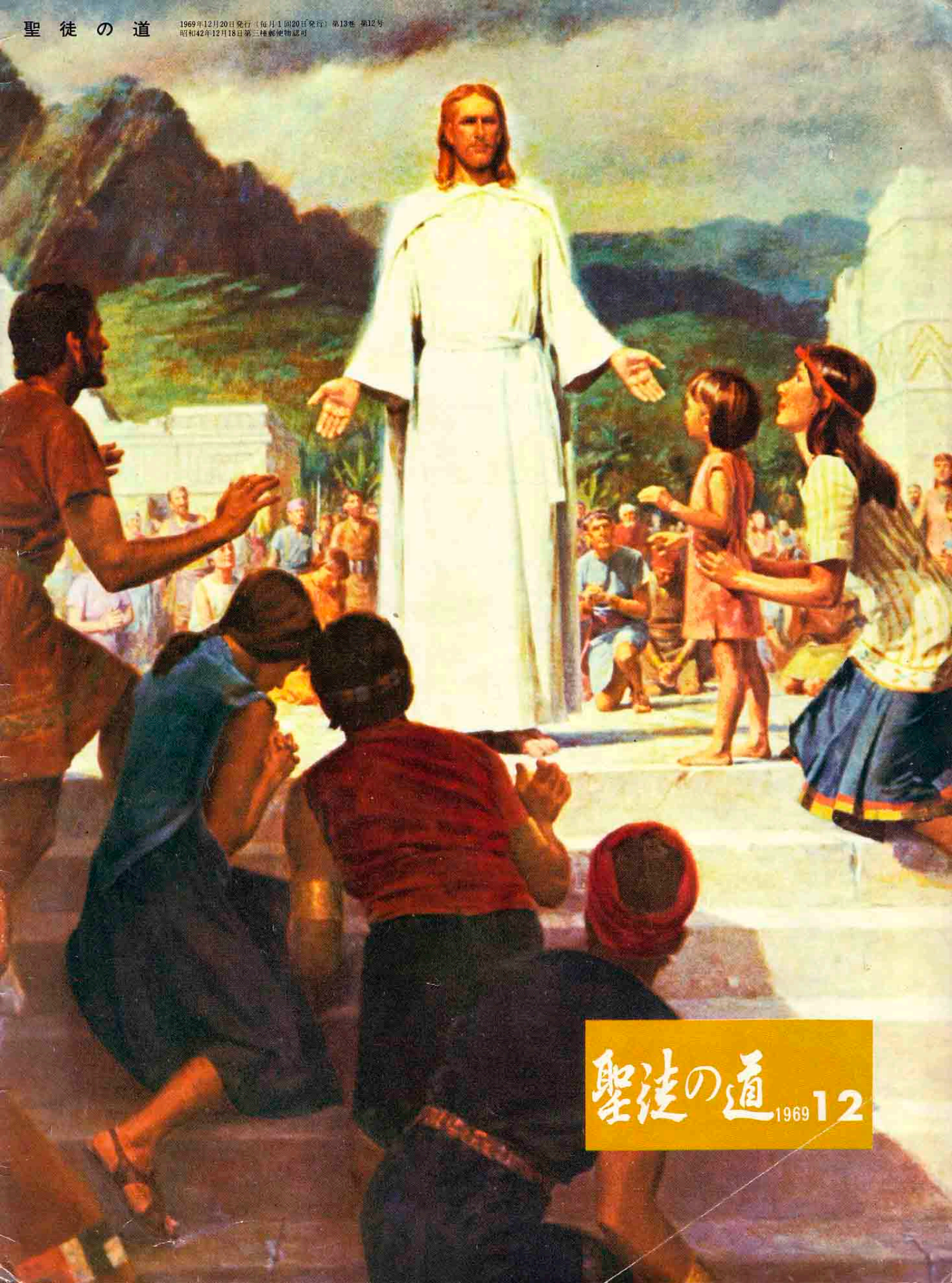
聖 徒 の 道
1969年12月20日発行（毎月1回20日発行）第13巻 第12号
昭和42年12月18日第三種郵便物認可



聖徒の道 1969 12

心の糧

副管長　N. エルドン　タナー

献身的な若い宣教師と，その両親の奉仕こそ愛の奉仕である。これらの人たちはいかなる報酬を求めることもなく，己れを忘れてただ神と同胞につかえんと数々の犠牲を払っている。

今日の世界の争いと核戦争の脅威は明日に目をそむけさせる。しかし，世の人々がこの福音を受け入れるならば，地上に平和が満ちるであろう。各人の自由意志と生命を脅かすこの世の戦いは，天上の戦いの継続である。天においてサタンは，神が人間に与えたもうた最大の賜である自由意志を奪い去ることを決めたのである。

——もくじ——

予言者のことば

すべての家庭に……大管長　デビド　O. マッケイ……473

クリスマスの準備はできていますか……ハロルド　B. リー長老……474

特別な夕べ……ジャニス　F. ハッチンソン……476

記録と報告書の利用法……デルバート　L. スティプレー……479

ジョセフ・スミスとその家族……アルバート　L. ゾベル，Jr.……482

主の求めたもうことをなしとげよ……ヒーバー　J. グラント……483

月へ向って……ウィリアム　T. サイクス……485

心のらしんばん……メーベル　ジョーンズ　ガボット……487

日曜学校

万人の希望と喜び……エバリン　M. サンドバーグ……488

若人のページ

ポールのサンタクロース……ドンル　ドゥイット……490

管理監督のページ

知恵の言葉……ジョン　H. バンデンバーグ……492

MIA

信頼と従順を学ぶ家庭……リチャード　H. マドセン，ドラリー　D. マドセン……493

愛の力……リンゼー　R. カーチス……496

伝道部長会メッセージ……497

ローカルニュース……498

わが過ぎ去りし時はいずこ……リチャード　L. エバンズ……裏表紙

子供のページ

ジェミーのプレゼント……バーナデン　ビーティー…97

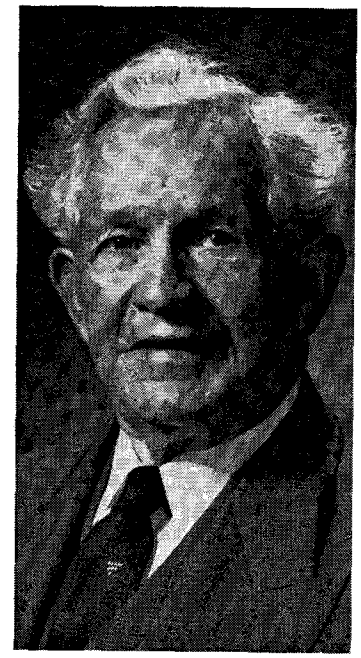
ピンクの化粧台……ウエンデル　J. アシュトン……100

今月の表紙

「わたしにはまた，この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らを導かねばならない。彼らもわたしの声に聞き従うであろう。そして，ついに一つの群れ，ひとりの羊飼となるであろう。」（ヨハネ10：16）今月の表紙はジョン・スコットの「アメリカにおける復活されたキリスト」の絵の一部分である。この絵は，キリストが「他の羊」すなわちアメリカ大陸のニーファイ人とレーマン人に教えを宣べている様子を描いたものである。

すべての家庭に

大管長　デビド O. マッケイ



北国では冬のさなかに，南国では夏の恵みの中に訪れるクリスマスは，一年中で最もしあわせな季節である。

木の芽が一斉に芽を吹き，豊かな生命を色とりどりにあらわす春は，新しい希望を吹き込み，しあわせな日々を約束してくれる。夏はけんらんたる美しさをもって一年を飾り，人々に楽しみをもたらす。たわわに実る穀物と果実の秋は，山々を鮮やかに色どり，自然の恵みに対する感謝の思いで満たしてくれる。しかし日は短かくなって憂いを帯び，冷たい空気が冬のきざしを知らせる。冬は収獲の畑に静けさと山あいに寂しさをもたらす。

四季はそれぞれ特有の楽しみ，喜び，すばらしさを持っており，いろいろな人々や国々により，さまざまに喜び迎えられている。各季節には数々の誕生日や休日があり人々はめいめい趣きのある喜びの記念日や祝日をもうけているが，クリスマスには，世界中いたる所に賛美と喜びが満ちあふれる。

最初のクリスマスの話，この世で最も偉大な物語，救い主の誕生については，聖書の中に，特にルカ伝の中に美しく記されている。

さて，この地方で羊飼たちが夜，野宿しながら羊の群の番をしていた。すると主の御使が現れ，主の栄光が彼らをめぐり照したので，彼らは非常に恐れた。御使は言った，「恐れるな。見よ，すべての民に与えられる大きな喜びを，あなたがたに伝える。きょうダビデの町に，あなたがたのために救い主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。……するとたちまち，おびただしい天の軍勢が現れ，御使と一緒になって神をさんびして言った。『いと高きところでは，神に栄光があるように，地の上では，み心にかなう人々に平和があるように』。(ルカ２：８11，13〜14)

聖なる予言によって，ベツレヘムにお生れになった神の御子の誕生を記念して，一日が他と区別して定められたということは，なんとすばらしいことであろうか。この予言は，ヨセフとマリアが税を納めにベツレヘムへ行かねばならないというローマの布告により成就されることになった。彼らがナザレから旅をしてそこへ着いた時，旅館には部屋がなく，隊商の宿に行かねばならなかった。それは我々が想像するような馬小屋ではなく，動物をつないでおく石灰岩の洞窟であった。神の御子，人類の救い主は最も貧しい環境の中でお生れになったのである。

かいばおけの中でお生れになったイエスは，神，創造主なる御父の王子としてのあらゆる力を受けついでおられた。イエスはわずかに三年間しか人々に仕えなかったがイエスが地上で最も偉大なお方であり，単なる一人の完全な紳士ではなかったと人はいうのである。イエスは，世の人々が普通に偉大であると思うようなことは何一つしなかった。イエスは発見者でも発明家でもなかった。イエスは律法学者ではなかったが，律法学者を打ち負かされた。

イエスは作家ではなかった。高慢で尊大なパリサイ人によってイエスの前に引き出されたかわいそうな女を助けるために，砂の上に指で書かれたことを除いて，イエス

がお書きになったという記録は何一つ存在していないし，また知っている人もいないのである。

人の栄誉という点でもイエスが偉大であったということはできない。しかし，人格においては最も卓越しておられた。世界に平和を確立する責任は国家の指導者にのみあるのではない。それはすべての個人，すべての家庭，すべての市町村にかかる責任である。

キリストの実在を，あなたも私も感じなければならない。もし我々が霊的に進歩したければ，キリストの教理を，私のものであると同時にあなたのものとしなければならない。

もしそれらを感じることができさえすれば，霊的な進歩の過程には，確かに必要で，明らかな段階がいくつか存在するのである。

1．自由の意識　これはキリストがその地上における使命をお受けになった時に始った原則である。神は人間が御自身のごとくになることを望みたもう。しかし，そのためには，まず最初に人間に自由を得させなければならないのである。

2．克己の精神　我々はキリストがなさったように，誘惑に打ち勝ち征服しなければ向上するはずがない。

3．責任感　この点でもキリストはその模範であり，他人に仕えるために御自身の安らぎと必要なものを犠牲になさった。

4．御意に対する従順　人間が霊的に達成する最も高いものは，神に栄光を帰すべく同胞のために言動をすることである。このようにして，人生を神に捧げるのである。

今日，国々の行く末は「汝はキリストを何と思うか」という何にもまして大切な質問の中に含まれている。今や平和のために戦っているいわゆる文明国がこの質問に答え，しかも正しく答えなければならない，いまだかつてなかったような時なのである。

復活なさった主，イエス・キリストなしで世界は存続しえない。クリスマスの真の精神はキリストの精神である。

我々，キリストの教会員，キリストによる兄弟，姉妹は，キリストをこの世の最も偉大な人としてだけではなく，さらに人類の贖い主として常に受け入れているのである。

死すべき肉体はアダムにより我々にもたらされた。彼は自らこの死すべき状態を選びとったのである。それが進歩の第一歩であった。

アダムは，神がお与えになった賜である選択の自由により死すべき肉体を受けた。しかし，アダムとそのすべての子孫が神の御前にたち帰ることができるように，イエス・キリストがある計画をたて，この世に来たりたもうことをアダムは知っていた。その計画とはイエス・キリストの福音である。イエス・キリストは実に生きたもうこと，ペテロが，イエスは神の御性質をもちたまい，真理を語られたと述べたこと，また今日の人々もその同じ御性質を知り得ることを，私は心から証し申しあげる。

世の多くの人々が救い主イエス・キリストを受け入れるために，我々が役立つことができるよう，神がこのクリスマスに我々を助けたまわんことを。/また終りに，あなたがた一人一人の上に楽しい喜びのクリスマスと幸多い新年が来たらんことを，また教会の歴史上最もよきクリスマスとならんことを，へりくだり主の御名によって祈る次第である。

クリスマスの準備はできていますか

十二使徒評議員　ハロルド　B.　リー長老

40年近く前になりますが，私は昔のパイオニアステーキ部長に召された時から，充実した実り多い生活をしてきました。今日の標準からしても大きなステーキ部で，11のワード部と7,500人近くの会員を擁していました。ソルトレーク市の南に位置し，当時人々の生活は経済危機に襲われ．苦難の時代でした。

私がステーキ部長会に入って最初のクリスマスだったと思いますが，幼ない娘達は朝起きて大急ぎでプレゼントを開くと，新しい人形等を近所の友達に見せて回りました。

間もなく，娘達は目にいっぱい涙をうかべて帰ってきました。

「一体どうしたの」と私達が尋ねますと，泣きじゃくりながら，「お友達には，クリスマスプレゼントがないのよ。サンタクロースはお友達の家へ行かなかったのかしら」と答えました。

向いの家は，子供達が教会員で，母親は余り活発でなく，父親が教会員でないことに気づいた時はすでに遅すぎました。父親は失業していたのです。私達はそれをすっかり忘れていました。私達のクリス

マスは台なしになってしまいました。

私達の考えのなさをつぐなおうと，娘達をその家へやってプレゼントを分けさせようとしましたが，遅すぎました。おいしいはずのクリスマスの夕食もあまりおいしいものではありませんでした。私はその時，ステーキ部の人々の福祉が私の双肩にかかっていることに気づきました。

私達は調査を始めました。そして，ステーキ部の全会員のうち4,800人が完全にまたは一部他人に頼って生活している，つまり戸主に安定した職のないことが分り，驚きました。

その頃，政府は失業対策事業を行なっていなかったので，自分しか頼りになりませんでした。教会の資金は減少の一途をたどっていました。教会本部の資金からの援助は期待できないことを通知されていました。そして，このような逼迫した状態のまま，翌年のクリスマスシーズンを間近に迎えることになりました。1,000人以上の10歳以下の子供達が路頭にさまよっていました。クリスマスどころではありませんでした。

私達はクリスマスの準備にとりかかりました。ピアポンド街の古い店の2階が空いているのを見つけそこに，こわれているものもいくつかありましたがおもちゃを集め，クリスマスの1カ月か2カ月前から両親達がそこへ集まりました。ある人は早く来たり，遅くまで残って，自分の子供のために何か特別なプレゼントを作っていました。

それこそクリスマスの精神でした。だれもがその店のドアを開けて，2階の仕事場を見，それを感じずにはいられないものでした。私達は子供達が皆クリスマスを迎えられることを目差していました。何の援助もなく，クリスマスを迎えられない4,800の家庭に，クリスマスを贈らなければなりませんでした。木の実，お菓子，みかん，焼き肉などがクリスマスのメニューでした。

私は当時市の委員をしていました。その年クリスマスの前日は大雪でした。私は一晩中仕事の仲間と通りの雪かきをしました。そのためにだれかが仕事上でしくじったら，私の責任だということを知ってはいましたが，それが終ると，朝事務所へ行くため着がえに家へ帰りました。

町へ戻る途中，道端で小さな子供が車をとめようとしているのに出会いました。その子供は寒い中で外套も着ず，手袋もなく，長ぐつもはかないで立っていました。私が車を止めると，よじ登るようにして隣りに座りました。

「もうクリスマスの用意はできたのかい」と尋ねますと，

「ええ，うちにはクリスマスなんかないよ。父ちゃんは，母ちゃんと僕と小さな弟と妹をのこして，三カ月前に死んじまったよ」

10歳にもならない子供を3人も残してです。

「どこへ行くの，ぼうや」

「ただでやっている映画を見に行くんだよ」

車の温度をあげながら気になって，「きみの名前と住んでいる所を教えてくれるかい」と言いました。

しばらく話していると，その子供の家族は教会員でないことがわかりました。

「だれかがきみの家へ行くから，忘れちゃいけないよ。さあ，きょうはクリスマス・イヴだ。良い日になるよ」

その夜，私は各ワード部の監督に各家族を訪問して，援助を受けているかどうか見て来てしらせて欲しいと頼みました。

最後の監督が報告に来るまでの間，悲惨だったあることを思い出しました。教会の責任に追われていて，車に乗せた少年との約束を忘れていたのでした。

最後の監督が報告に来た時，こう頼みました。

「時間があったら，もう一家族訪問してくれませんか」

「ええ，いいですとも」と彼は答えました。

私は事のいきさつを話し，住所を教えました。

しばらくして，その監督から電話があり，少年の家族もぎっしり詰った籠を受け取ったと言ってきました。やっと，クリスマス・イヴが終り，私も床に入りました。

クリスマスの朝起きた時，心の中に思いました。

「神は私が決して年月を無黙に過さないことを知っておられる。私は指導者として人々のことや必要としていることを心から知ろう。私の指導を最も必要としている人に心を向けよう。」

私は人々のことをよく知らなかったので，ステーキ部長として一年目は，私の不注意が苦しみを生んでいました。けれども，私は今，回りにいる人々の必要としているものを見逃すようなことを繰返しはしなくなりました。

特　別　な

私はこれを書くにあたって，「未亡人としての祝福」という題をつけようと思いました。きっと皆様に妙に思われるかもしれませんが，未亡人となってから知ったことは私が受けた大きな祝福の一つなのです。

父親が亡くなった時，ボビーは9ケ月，そしてパティは4歳でした。ですから2人には，あまりショックはありませんでしたが，6歳のゴードンは傷つきやすい年頃でした。彼は泣けないために，かんしゃくを起こしたり，すねたりふくれたり，勉強をしなかったり，いろいろと感情的に爆発させていました。私には，ゴードンが苦しんでいることがわかるのですが，どうしてやることもできませんでした。

寝る時になるとゴードンはお祈りをするのがつらいようでした。彼はお祈りをしようとするのですが，そのうち泣いてきちがいのようになるのです。（私にはそのように思えました。）そして，ゴードンのそんな態度を見ていると，私は疲れて怒り出し，イライラしてしまうのでした。私は部屋からでて行き，泣いたままにしておきました。私が彼を抱いたり接吻してあげようとすると，たいてい取組み合いのけんかになりました。

ゴードンは，妹がきらいだから，死んだらいいと思っているとまで言いました。これはさらに問題を起こしました。それは，ゴードンがパティをきらっているということを，パティに感じさせたことです。彼が死にたいと言った時には，私はびっくりしてしまいました。私が何かでしかると，ゴードンは「僕を殺してしまったらいいじゃないか」と言いました。彼は極端なことをやるようになっていました。何度も，わざと学校で問題を起こしたり，私を困らせたりしました。そうすれば彼は罰せられるし，自分に注意を払ってもらえると思ったのでした。私の心は気も狂わんばかりに傷つけられました。私は心理的にまいってしまい，後になるまでこの状況を説明したり，解決することはできませんでした。

しかしこれを通して，私は母親としての責任に気がつきました。世の多くの母親はその責任を認識していると思うのでこれを聞いたら妙に思われるかもしれませんね。私も認識しているつもりでいました。しかし私の生活が子供を中心にして回わり始めてから，私はかつてないほど，子供と一緒に過ごすことの重要性を感じました。子供の問題に関心を持ち，話を聞いてやり，いろいろなことを教え，子供との交わりを深める方法を学ぶことの大切さがわかりました。

私は常に教会で活発でした。私たちのワード部は小さくてすべての人の手を必要としていました。主人が亡くなった時には，私は6つの責任を持っていました。さらに，屋根を修理したり，パイプを取りつけたりというような家庭の仕事もふえて，急に私はへなへなと何かに押し負かされそうになっていました。いつも子供たちが私を必要としていました。パティは私と遊びたがり，ゴードンは私がいつもそばにいて理解してくれることを望み，ボビーは私に抱きついてきて，私は息をつく間もないほどでした。私はいつも忍耐力に欠け，いつも何かしらレッスンを準備するのに大わらわでした。私はイライラし始め，子供たちに当り散らしました。

私は教会の仕事を愛していましたが，子供たちのことも愛していました。私は，子供たちを感情的にも，精神的にもほったらかしにしていたことに気がつきました。そしてそんなにも大切だと思っていた教会の活動に，ついていけないことを知りました。もっと子供のために必要な時間を作ってあげられるのにと思いました。私には両方はできません。でも，どの責任をやめることができるでしょうか。責任をやめることは，息をするのをやめるようなものです。私は，召しを受けた時には，仕事を受ける責任というものを感じていました。どちらかに決めるのはむづかしいことでした。

私は自暴自棄になって，一人言を言いました。「私には教会の仕事をしたり，子供を正しく育てたりはできないわ。でも，頼まれたことはやらなければならないし，どうすればいいのかしら。」その時自分が大きな声で言っていたのを覚えています。答えを期待していたわけではないのに，その時，確かに「仕事をやめなさい。全部ではなく，そのうちのいくつかをやめなさい」という答えが返ってきました。この答えによって私は，主が家族を教会のために犠牲にすることを望んでおられないことがわかりました。もし私が子供をおろそかにしたら，それは神様をおろそかにすることなのです。

こう決心すると，私は子供たちに，もっと一緒に過ごす時間を作るために，教会の責任のうち3つやめると言いました。子供たちの示した反応に，私は驚ろきました。「じゃあ私と一緒に紙のお人形さんでお遊びできるのね」とパティが大きな声をあげました。ゴードンはニヤッと笑っただけでした。ボビーは小さすぎてわからないのですが，何かを感じとったらしく，カウボーイのような格好をして飛びかかってきました。

私は一日中，昼も夜も，子供を教育するための助けを祈りました。父親の死によって生じた感情的な苦しみ悩みに子供が打ち勝つように，もっと深い家族の結びつきをつくることができるように，子供の生活に福音を本当の意味で生かすことができるようにと，祈りました。私にはやることが多すぎてどうやってどこからこれを始め，どうしたらよいのかわか

夕　べ

ジャニス　F. ハツチンソン

りませんでした。その時，教会は私に「家庭の夕べ」のテキストを教えてくれました。それは，私の祈りに対する答えでした。

家庭の夕べとは，何と楽しいことでしょう。レッスンをしフランネル・ボードを作って話をし，歌を歌い子供も一人づつ何らかの形で参加するのです。パティがふざけて言うように，最後にポップコーンがでなかったら大失敗に終わるのです。

私は一つだけに片寄らないように努力してきました。ゲームや，あやつり人形の劇，たのしいリフレッシュメント，遠足，家庭での映画会，漫画などは，まじめなレッスンと同じ様に大切なものです。

しかし，時々絶望的にもなりました。これらのことをしても，子供を少しも天使のようにはしないものだということがわかりました。子供たちはまだ小さいし，伸びざかりなのです。ボビーのミルクが猫のお皿に入っていたり，風呂場の鏡にハミガキ粉で堂々とらくがきしてあったり，パティの洋服が洋服だんすの中ではなく後に詰めこまれていたり，ゴードンのサンドイッチのパンがドアの後に見事にはさまっていたり，ビスケットが枕の下でつぶれていたり，学校の本や宿題が犬小屋の後にあったり，うそをついたり，口ごたえをしたりこういうことがたくさんあるのです。子供たちは，わんぱく盛りなのです。

私をもっともイライラさせた問題の一つは，家庭の夕べのレッスンで解決できました。何かいたずらを見つけると，私はこう言います。「ゴードン，あなたがしたの」「ちがうよ」「パティかしら」「いいえ」「ボビー，あなたかしら」「ちがうよ」明らかに3人のうちの誰かがうそをついているのです。こうなると，かなり絶望的のようです。家庭の夕べのレッスンでは，両親が子供を正直にさせる方法は，誰かが間違った時に，その人は自分の誤りに気がつかなければならないということを悟らせることだと言っています。このレッスンを学んだ時，私はこう思いました。「このレッスンは私の役に立ちそうもないわ。大人の助けにはなるでしょうが，子供には役に立たないわ。」

ある時，私は油絵を仕上げました。とてもよくできたのです。お店へ買物にでかける前に，それをピアノの上に置いて行きました。戻って来て，絵の中央右側に大きな手の跡を見つけました。そこで，私は前のように質問をしました。前のような答えが返ってくるものと思っていました。

「パティ」「お母さん，私じゃないわ」

「ボビー，あなた」「ちがうよ」

「ゴードン，あなたがしたの」しばらく，何の答えもありませんでした。「ゴードン」

「はい」静かな答えがありました。

「あなたがしたのね」私は驚きました。

再び「はい」という返事が返ってきたからです。それに，ゴードンは柱のところへ行って，自分の手をふいた箇所を見せました。

「どうして自分がやったと認めたの」

彼は肩をすくめて言いました。「お母さんがしてくれたレッスンを思い出したからだよ」これはよい方向にむかって，踏み出したのでした。

家庭の夕べのレッスンによって，家族の一人一人が家庭にとって大切な人であり，それぞれの才能によって他の人に恩恵をおよぼしていることを理解したのです。子供は時々自分があまり大切な人ではなく，両親はちっとも自分をかまってくれないと思いがちであることを私は知りました。

このレッスンを準備するに当って，私は子供たちの持つ才能について考えました。自分が子供に対して，消極的な考えしか持っていないのに驚きました。そこで私は，一番上のゴードンが，物を修理するのが好きなことを思い出しました。突然，いい考えが浮かびました。私は台所のリノリュームの敷物のふちに細長い金属板をつけたいと思っていたので，ゴードンが学校に行っている間に，ねじがまがらないで入るように穴をあけました。それからゴードンに，金属板を置いてねじをしめて欲しいとたのみました。私はできないふりをしていました。彼は自信を持ってそれをやりとげました。私はこのことをレッスンの時に，彼の才能を具体的に示すものとして紹介しました。彼は，家族の前で，自分が本当に大切な人であることを知りました。レッスンによって，ゴードンは前と違った新しいことを考えるようになりました。物を取りつけることが楽しそうでした。今や，彼はレッスンに示される原則を通して，他人に奉仕し，他人を幸福にするために自分の才能が与えられていることを知りました。私は考えを実行していきました。パティとボビーの才能も教えました。

ある日，私は近所の人々に，少し質問をしてみました。

「あなたの人生に影響を与えた，楽しい思い出はなんですか」

スミス氏はため息をつき，昔をなつかしむように笑って言いました。「愛する家族と共に夕飯を囲んだことを思い出しますよ。それは，私たち一人一人が大切な人であり，必要なんだと教えてくれましたよ。母の手造りのパン，はちみつのお菓子をひっぱりっこしたこと，ポップコーンを作ったこと

なつかしい歌を歌ったこと，アイスクリームを作ったことなど決して忘れない思い出ですなあ。」

２人で共同生活をしている姉妹たちは楽しそうに語ってくれました。「学校から帰って，焼きたてのケーキのにおいをかぐことほどすばらしいことはなかったわ。家庭はいつも活動の中心で，集いの場所でしたからね。クリスマスには家族で木にポップコーンを結んだり，寒い中をハイキングしたり，家をかざるヤドリギや果実を取りに森へ出かけたりしました」

単純な習慣ですが，これが真の家庭を築く上に助けとなるのです。家族の活動が家族を一つにまとめ，心にのこる思い出をつくるのではないかと考え，私も子供のために思い出を作ってあげようと思いました。

今や私のなすべきことがはっきりとしました。それには時間とエネルギーを必要としますが，とにかく子供の助けができ，自分も家族としての一体感を得て，強い信仰を築き，祈りの重要性と祈りから得られる大きな祝福を学ぶことができるのだと思いました。高い理想に向って努力することによって，互いに手本を示し合いながら教えることができるのです。

これを私一人ですることは，なまやさしいことではありませんでした。多くのことをしなければならないし，多くのことに気をつけなければなりません。家庭の夕べをするにはあまりに疲れていることが，よくありました。それでも私は，家庭の夕べを開かなければならないのです。だんだんと成果が見えてきたからです。

ゴードンと私は，話し合いができるようになりました。すばらしいことです。時々彼は私に腕をまわしてきました。それに，私がおやすみなさいのあいさつをしても大丈夫になりました。他の人には，前のことを知らなければきっと分らないと思います。さらに，ゴードンはかんしゃくを起こしたり前のように妹をいじめたりしなくなりました。バレンタインデーには，ゴードンはパティに手紙を書きました。

「可愛いいパティへ。ぼくは本当に君のことが好きだよ。でもぼくは男の子なんだ。男の子はこんなことを言うときはまごつくものなんだよ。ゴードンから愛をこめて」

パティには，ゴードンの態度が変わってきたことがわかりました。「見て，お兄さんは私のことを本当に愛してくれているのよ。」きっと彼女はウィンクしながらこう言うことでしょう。

家庭の夕べが私たちにとって身近かなものになって来たので，ゴードンはとうとう，自分が祈ろうとする時にいつも困まっていることを，素直に言いました。「ぼくのお祈りは天国に行くんだ。天国はお父さんが住んでいる所だね。それを考えるとぼくはお祈りをする時に，悲しくて言えなくなるんだ。」私はいつも明るくふるまって来たので，彼は悲しいのは自分だけだと思っていたのです。悲しみに耐え，それを理解するのは，彼にとって重荷であることは，私にもよくわかりました。そこで私は寝る時に，わざと父の死という問題を持ちだしました。（前にはこの問題を避けていました。）ゴードンに，それについて話したいかどうか，また何か質問があるかどうか聞いてみました。そして私も彼のように悲しみを感じていることがわかると，私たちの間にはもっと深い心のつながりが生まれました。これは，家庭の夕べと計画した活動と，共に楽しく過ごしたことがなければ，決して得られないものだと思います。

理解と交わりを深めた結果，私はなぜゴードンがわざと自分を罰せられるような立場に置いたか，また感情を爆発させたかがわかりました。彼は父を恋しがり，あまりに父の傍にいたいという気持が強いため，ひどくぶたれたり，極度に肉体的な苦痛を身に受けることが，自殺（あるいは死）に至る一番手近な方法だと考えていたのです。そして，死こそは，彼の父がいるところだと考えたのです。

子供との関係をよいものにするため努力を始めてから，多くの問題が解決されました。その中でもゴードンの成績があがったことがあります。子供たちはそれぞれ自分の心の中に母親である私が子供を愛し，また天のお父様が彼らを愛していることを理解しているのです。彼らの一人一人に，他人にとってまた家族にとって大切な人であるという自覚が生まれてきました。私は家庭の夕べのようなすばらしい計画に感謝しています。しかし，ゴードンに関する問題は，２～３回の家庭の夕べできれいに解決したわけではありません。約３年間かかりました。

一週間に一度の特別な夕べは，子供の生活に大きな影響を与えるすばらしい思い出となることでしょう。いつか子供たちの孫が，子供たちの幼い頃の思い出を聞いた時に，たぶん彼らが遠く眺めるような目つきで「私はよく家庭の夕べについて思い出しますよ。私の家には，親しみと，共に過ごした楽しさがありました」といってくれるのを期待しています。家庭での経験は思い出以上のものになります。生涯を通じての生活態度を決めるものとなるのです。

※ハッチンソン姉妹は，（ユタ州）ウェンドーバー・ワード部の福音教授クラス教師であり，ウェンドーバー校で秘書をしています。このすばらしい記事は，彼女が1961年に夫をなくして以来，家庭の夕べによって得た恵みについて書かれています。

記録と報告書の利用法

十二使徒評議員

デルバート L. ステイプレー

記録するという言葉には，「永久的な形にすること，忘れないため保存すること」，「将来に使うため書き記すこと」というような定義があります。

予言者たちの言葉から，神につける民の記録には，二つの基本的な目的のあることがわかります。つまり，

1．人々を霊的に成長させ，不死不滅と栄えある永遠の生命に向って進歩させること。

2．神より選ばれた僕たちがその管轄下にある人々を判断する手段とすること。

モーセ，サムエル，イザヤ，ニーファイ，モルモン，モロナイ，ヨハネ，パウロ等偉大な予言者たちは記録者であり，記録の保管者でもありました。

時代の昨今を問わず，記録は予言者と人々の間の伝達経路でした。記録によって，人々は主の偉大な知識に浴し，主のみこころ，御計画を知り，主の御前に帰るために，喜びあふるる路を旅するための道しるべを知ることができたのでした。一方通行でない伝達方法を開き，正しく使ってこそ，弱点を克服し，長所を伸ばすことができます。

けれども，記録は私たちを高める経路にとどまるものではありません。第二の目的すなわち神より選ばれた僕たちがその管轄下にある人々を判断する手段にすることができます。

主はニーファイに対して次のように述べておられます。「われは一切の人々に，われがそれらの人々に語る言葉を書き記せと言う。そは，われはその書き記さるる諸々の書に従い，その中に記さるることによりてあらゆる人をその為したる行いに応じて裁判せんとすればなり。」（Ⅱ ニーファイ29：11）

この時満ちたる神権時代に，主は裁きにおける記録の役割について述べておられます。「……また一つの書開かるるを見出せど，その書はすなわち生命の書なり。されど死にたる者は，数々の書に録せるその行為に随いて審かれたるを見出さん。……また生命の書とは，天に於て録さるる記録なり。」（教義と聖約128：7）

このように，歴史を通じてまた現在も記録は神につける人々にとって重要な意味を持っています。教会で指導者の職にある人々にとって，人々が永遠の生命を求める上で，判断と王国における裁きに，記録は重要な役割を果たします。

初期の教会にあってまた回復された現在の教会にあっても記録は目標でもなく最終目的でないことを忘れてはなりません。むしろ，人々を高めさせ，神の王国を建設する道具として役立ってきました。

記録は受動的なものですが，報告は生きたものであり動きのあるものであるはずです。報告の定義に注意して下さい。「見，聞き，読み，なし，考慮されたことの説明」。動詞はすべて動作を表わす言葉であることに注意して下さい。もう一つの定義を読んでみましょう。「通常書面で公式に表現された説明」。

報告は，完全，正確，読みやすく，きれいで，期日に間にあうことが必要です。報告書には注釈，議事録，統計，その他の報告書等，書記が作成し，研究し，考慮するため管理役

員に転送されるものが含まれます。

報告は，それを受けた指導者に行動をもたらすような情報で構成されていなければなりません。報告は，概要を表わすので最良の形態を備えている必要があります。

報告書は，教会のワード部，支部，ステーキ部，伝道部のすべての管理役員に転送され，使用されるべきです。報告書が正確に記載されているかどうかを調べるのは，この指導者の責任です。

報告書を作成する人，報告書の処理を決める人を選び，訓練するのも管理役員の責任です。良き指導者は，自分の指導する人々が進歩すれば，自分も強められることをわきまえています。

さらに，教会幹部はステーキ部の管理役員や書記の指名，支持，任命にあたっては細心の注意を払っています。各役員を召す時，報告の責任が強調されます。良い指導者は，人々の信頼をかちえて人々を鼓舞しますが，偉大な指導者は，自分に信頼して人々を鼓舞します。

正しく，また祈りの結果選ばれたステーキ部書記は，自分の補佐を訓練し，補佐と共にワード部書記，書記補同様，神権定員会および補助組織の書記を訓練します。次にワード部書記は，書記補，アロン神権定員会と補助組織の書記を教育します。これらの重要な職に携わる者がよく訓練されればされる程，よりよくその責仕を果たすことができます。職を正しく行なう訓練を受けた人は，よりよい報告書を作成でき，それが管理役員が良い仕事をする基いとなります。

良い報告書は注意を要する弱点を指摘し，同時に長所も指摘します。それにより指導者は，組織が進歩しているか退歩しているか，また自分の管轄下にある人々を霊的に進歩しているか退歩しているかを見つけることができます。正確な報告書は，組織の進んでいる方向を表わします。正しい報告書を作成し，期限内に提出されているかを常に強調するべきです。報告書は注意深く見なおして，空白欄に注釈を書きます。これが，報告書を研究し，将来のために利用したかどうかの証拠になります。

有能な指導者は，航海士が海図を使うと同じように報告書を利用します。すなわち，進路を確かめ，方向を知るのです。良い報告書は，管理役員が担当している教会の各前線を見る際の目になることができます。良い指導者は，報告書を忠実に研究し，検討します。報告書研究をする時，良い指導者は数字や統計を生きたものにします。ただ数字を見るのでなく，某兄弟がプライマリーの二級スカウトを卒業せず，アロン神権にまだ聖仕されておらず，ＭＩＡにも出席していないことを読みとります。

思慮のある指導者は自分の群によく助言することができます。また良い業績に対して賛辞を送り，改善の余地があったり，さらに適切な行動が必要とされる場合には，適確な励ましを与えます。

地方の指導者は勤勉に報告書を研究し，常に事実と数字を把握する必要があります。忘れることのできないことわざがあります。「指導というものは，上から下へ浸透するのであって，下から上へ行くものではない。」

良い記録と報告があってこそ，指導者は自分の業績を評価し，前月比，前年比，二年前比の人々の業績を比較することができます。「比較がなければ，善悪の区別はない」という言葉があります。自分で最も厳しく批判し，自分を他人よりも自分の標準で比較することは良いことです。福音は永遠の進歩を教えるという点で，比較を用いる意味があるのです。自分の管轄下にある教会員はどんな進歩をしたか。前月と比較して，そのうち何割の人が現在聖餐会に出席しているか。前年比ではどうか。成人会員の何割が神殿推薦状を受ける資格があるか。結婚の何割が神殿で行なわれたか。若人のセミナリーやインスティチュートへの出席率はどういう方向に向っているか。これらは一例にすぎません。正しく作成された報告書は，その他多くの重要な事柄を表わします。

統計は個人の行動を表わします。私たちの関心は責任範囲内にある神の子供にあるのであって，報告書上に表われる数

字にあるのではないことを常に心に留めるべきです。

指導者が関心を寄せるべき個人の生活で，記録や報告書に表われない重要なことが他にもありますが，記録や報告書は私たちが絶えず業績をはかるのに必要なものさしなのです。

記録や報告書を利用しない指導者は，器械を操作しないで飛ぶ飛行機のパイロットのようなものです。報告書に表われた傾向を疑問に思い，なぜかと尋ねるべきです。そしてはじめに，状況を改善する必要な手段をとることができるのです。

熱心な指導者は自分の目標を立てます。報告書を研究して組織の進んできた方向を見定めてこそ，人々を霊的に成長させるにはどの方向へ行くべきかを考えることができます。

報告書を利用し，毎月検討することにより，個人に昇栄をもたらそうとする教会の全プログラムの姿を見なおすことができます。賢明な指導者は記録と報告書を使って，プログラムのバランスを保ち，プログラムにおける自分の立場を正しく保つものです。

神の御計画において，人は万物の霊長です。教会のプログラムとその活動状況を表わす報告書は，教会員が現在においても未来においても意義ある生活を送る助けになります。これは私たちが伝達経路をより活発にしてこそ達成できます。思慮のある働きはより多くの効果を生みます。

教会の活動の報告書は監督の机の上に集まってきます。神権コリレーションにより，監督はプログラムよりも個人に一層の関心を示すようになりました。もちろん教会のプログラムは欠くことのできない大切なものではありますが。統計の数字を良くすることよりも人々の必要を満たし，人々の心を天へ向けさせることに関心をいだいていることでしょう。また，人々を高めるようなワード部活動の報告書を検討し，数字を人の象徴として見るでしょう。そして，単なる象徴としてでなく，自分の導く人々の生活に入って行きます。よい報告書は，よい活動をもたらします。よい報告書は，熱心な会員の業績を反映します。

賢明な監督は神権指導者との口頭評価の際，ワード部役員会，評議会で報告を利用します。また活発，不活発のある家族について知りたい時報告書を利用します。また自身を含めたワード部の会員たちの進歩への道を決定する手段として数字を利用します。

同様に，ステーキ部長会は報告書の及ばない所を監督や神権指導者と話し合います。ステーキ部長は，監督がどのようにしたら計画するという責任を果たし，ワード部の人々の必要を満たせるかを知りたいのです。十二使徒会地区代表も同様にステーキ部長が職の上で監督たちにどのように指示しているかを尋ねます。

教会幹部も十二使徒会地区代表とステーキ部長と会い，プログラムが人々にどのように役立っているかを知りたいと思っているのです。

けれども，指導者が報告書を研究し，判断し，正しく使うならば，人格を形成し，時間を活用し，才能を伸ばし，持てる力を出し切るための努力はより実り多いものとなるでしょう。これらの記録が正確さ，完全さ，期限に遅れないことを備えていれば，もっと役に立ちます。ですから，指導者は有能な記録者を選ぶのです。記録者がよく訓練されているか，自分の義務をよく知っているかを指導者は見ています。

記録と報告書の第一の目的は，すべての人々がイエス・キリストを知り，完全と永遠の生命への御計画に従って成長するための一助となることです。主の偉大な記録者は，記録を結び固め，次のような私たち全員にあてはまる助言を与えています。

「キリストの御許に来て全くなれ。すべて神のみこころに背くことを捨てよ。もしこのようにして勢いと力をつくして神を愛するならば，神があなたたちに与えたもう恵みは充分である。……あなたたちはこの恵みを受けてキリストにより全くなる。」（モロナイ10：32）

私たちが私たちの務めにふさわしくなるよう主が祝福したまわんことを祈ります。

ジョセフ・スミス と その家族

アルバート L. ゾベル, Jr.

日曜学校に出席するほとんどの若者は，1823年9月21日の夜から22日にかけて，天使モロナイが3度にわたって予言者ジョセフ・スミスのベッドのそばに現われたことを，また年若いジョセフが翌朝いつものように父親と働きに出かけ，気分が悪くなり家へ戻ろうとしたことをよく知っている。さらに垣根を越えて出ようとして地に倒れた時，再び天使が現われ，戻って父親に前夜の出来事をすべて話すようにと彼に命じた。

予言者の母，ルーシー・マック・スミスは，著書「ジョセフ・スミスの歴史」の中で詳しくこう述べている。

翌日の夕方，家族が集まった時，ジョセフは，畑で父親に語ったことすべてを家族の者に話した。またクモラと呼ばれる丘に行き，同じ天使にモルモン経を見せられたが，取り出すのを禁じられたとも語った。

長男のアルビンは，弟ジョセフがその日の出来事で疲れきっているのを気づかい，このように言った「ジョセフ，さあもう休もう。あしたは，早く起きて，日が沈まないうちに仕事を終えなくてはならない。お母さんに夕食を早めに作ってもらって，そのあとみんなで神様がお前に示された偉大なことを詳しく聞こう」（ルーシー・マック・スミス著「ジョセフ・スミスの歴史」）

翌日の夕方，ジョセフは自分の経験したことを家族以外のだれにも知らせてはいけないと言った。それから，自分に命じられた責任について詳しく語ると，家族の人々は喜びに満たされた気持ちで彼の話を聞いた。

ジョセフは，その後も続けて主から導きを受け，その時から彼の両親は，毎晩家族全員を集めてジョセフの話に聞き入った。母ルーシーは次のように述べている。「私たちの家族のほかに，どこにこんな奇妙な光景の見られるところがあるだろうか。父，母，息子，娘が一つの輪をなして座り，生まれてこのかた一度も聖書を通読したこともないわずか18歳の少年の話に真剣に耳を傾けているのである。他の子供たちとくらべたら，書物を精読する方ではなかったが，ジョセフは人一倍瞑想にふけり，強い探求心を持っていた。

今では私たちも，神が人類の救いと贖いの計画に関するより完全な知識を私たちに与えようとなさっていることに確信を持つようになった。これによって，私たちは非常に大きな喜びを得，家庭の中には一致と幸福が，また心の中には平和がもたらされた。

このような夕べの話し合いで，ジョセフは時々驚くようなことを口にした。彼はこの大陸の古代の住民，彼らの服装，どのようにして旅をしたか，足の代わりをつとめた動物たち，町の様子，建物，戦いの様子，信仰などについて，非常に詳しくしかも容易に語るので，ジョセフがその生涯を彼らと共に送ったのではないかと錯覚するほどであった」（ルーシー・マック・スミス著「ジョセフ・スミスの歴史」）

予言者ジョセフ・スミスの父親ジョセフの曾々々孫にあたる大祝福師エルドレッド・G・スミス長老は，教会の第137回半期総大会の席上で「これはまさしく，この神権時代における家庭の夕べのはじまりと言えよう」と述べている。

（インプルーブメント・エラ　1967年12月号　英文82ページ）

ヒーバー　J．グラント第7代大管長から若人へ

主の求めたもうことをなしとげよ

ブライアント　S．ヒンクレーによる「偉大な指導者の生涯におけるハイライト」――ヒーバー　J．グラントより抜粋

主は4倍に報いたもう

ヒーバー　J．グラント大管長は，若き日のことを次のように述べています。

「若い頃，銀行へ預金しに行こうと思って，ポケットに50ドル持っていたのを覚えています。木曜日の朝，私は断食集会へ出かけました。その頃，断食集会は日曜日ではなく木曜日に開かれていました。その集会で，監督は献金を募りました。そこで私は彼のところへ歩いて行き，持っていた50ドルを渡しました。監督はそのうち5ドルをとり，それを引出しに入れると，45ドルを私に手渡しながら，「これは全部あなたのですよ」と言いました。

私は「ウーリー監督，どういう権利があって主に負債をさせるのですか。あなたはきょうここで，主が4倍にも報いたもうことを説いたばかりではないですか。私の母は未亡人で，200ドル必要なんです。」と言いました。

監督は言いました。「ねえ君，もし私がさらに45ドル受けとったら，君はすぐに200ドルもらえると思っているのですか」

「もちろんそうですよ」と私は答えました。

断食集会を終えて，勤務先に向かいながら，ある考えが浮かびました。私はある人に電報を打って，48時間以内に特別な価格で，ある種の債券をどれくらい買えるか，また，彼あてにウェルス・ファーゴー銀行の小切手を振り出してもよいかを尋ねました。私は彼のことは全然知りませんでした。今まで彼と話したことはありませんでしたが，ソルトレークの通りで1～2度見かけたことがありました。

彼の電報には，私のお金でできるだけたくさん買いたいと書かれてありました。その取り引きで私の受けた利益は，218.50ドルでした。

次の日，私は監督のところへ行って彼に言いました。「監督，私は先日例の50ドル献金した後で，218.50ドルもうけましたよ。ですから，什分の一は21.85ドルになりますね。200ドルを母にあげた今手持ちの18.50ドルに不足分をたして什分の一を払いましょう。主は4倍の他に，什分の一の分まではくださいませんでしたからね。

どうにかすればできたことだと言う人もいるでしょう。でも私は，そうは思いません。私は電報を打とうなんて思ってもいなかったのです。

末日聖徒として，私たちは自分の義務を果たすことによって，経済的に，霊的に，そしてあらゆる面で進歩すると，私は思います。主の戒めに忠実で，自分の時間と富を惜しまなければ，私たちの霊は成長し，福音に対する証は強まります。経済的にも，決して貧しくなることはないと信じます。私たちが経済的な義務を果たすとき，主は天の窓を開いて，霊性というあふるる恵みを注いで下さるのです。そしてそれは，この世のものよりはるかに価値のあるものと私は固く信じています。しかし私は，主がこの世のものについても祝福してくださると信じています。」

ニーファイ――「私の道しるべ」

大管長には若人に強く訴えるものがありました。それは，彼の生涯は彼が説いていることを実践したものだったからです。若人に与えた次の忠告がよい例です。

「若人よ，夢を持ちなさい。堂々と雄々しく夢を持ちなさい。
そうすれば，あなたの夢はあなたを導いてくれるでしょう。」

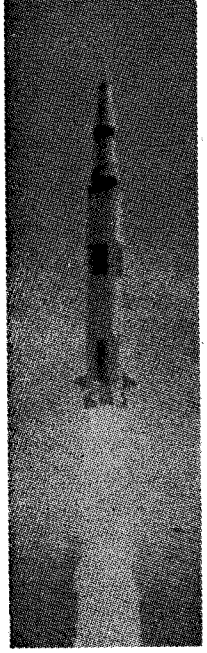
「もし大きな希望を持つなら，自分のなしとげたいと思うことを心に描きなさい。そして，力を尽してそれを行ないなさい。行ないのない空想は，何も生み出しません。大切なのは，実際の働きです。ヤコブの言うように，霊魂のないからだが死んだものであると同様に，行ないのない信仰も死んだものなのです。信仰は持っていても，行ないの伴わない人が多くいます。信仰と行ないの両方を持っている人は，物事を行なおうという気持のある人だと思います。与えられるにふさわしい決意を持っている人に，主はそれをなしとげるための道を開いてくれます。モルモン経のどこを探しても，ニーファイの言葉ほど，私の心，霊に深い印象を与えたものはありません。それは，ニーファイが兄弟と共に，レーバンから真ちゅう版を受けとるためにエルサレムへ行った時のことです。彼らが失敗して，ニーファイの兄弟たちが荒野にある父の天幕にもどりたいと願った時，ニーファイは彼らに，主が求めたもうことには，人がそれをなしとげるために前もってある方法が備えてあり，それでなくては主は何も求められないことを知っていると言いました。私は若き日にモルモン経を読んで，世の救い主を除いて，今まで読んだ他のどんな世俗的な歴史または神聖な歴史よりも，ニーファイに心をひかれました。彼は私を導いてくれる道しるべなのです。

成功とは

1897年，ヒーバーJ．グラント大管長は成功について次のように述べました。「富を築くことだけに成功して，生まれながらにして心の中にある愛情や同胞への愛をそこなうようなことをしている人は，真に成功したとは言えません。自分を最も理解してくれる人は，自分を一番愛してくれる人であり，行ないだけでなく心の奥底までも御存知の神様が自分を愛してくださることを信じている人は，たとえ貧困の中で死んだとしても，実際は成功という富を与えられたと言えるでしょう。

私は，現世においても来世においても，成功の法則とは謙遜な心と祈りの心を持って，一生けん命に働くことだと，確信を持って申しあげます。

誰もが自分の理想に恥じない行ないをしているとは思いませんが，日々進歩するために最善の努力をすれば，私たちは義務を果たすことになると思います。欠点をなおそうと努めそのように生活すれば，私たちは神様に知識と英知を，とりわけみたまを願い求めることができ，それによって弱点に打ち勝つことができます。私たちは，永遠の生命に至る真直ぐで狭い道にいるのです，そこには何の恐れもありません。私は自分を傷つける人でさえ恐れはしませんが，神様が求められるように信仰深く勤勉になれないのではないか，また，神様が与えてくださった才能を求められるように使えないのではないかとそれが心配です。」



月に向って

ウィリアム T. サイクス

長い針のような物体が大空に向かって突進する。人間をのせて月に向かうそのロケットを見ていると，私は古い半ば忘れかけた一つの物語を思い出した。それは追憶のかなたに埋もれてしまった空想のような話でもあるが，今なお地球の創造に関する歴史の中で厳然たる地位を占めている。

「彼らはまた言った，『さあ，町と塔とを建てて，その頂を天に届かせよう。そしてわれわれは名を上げて，全地のおもてに散るのを免れよう』。時に主は下って，人の子たちの建てる町と塔とを見て，言われた，『民は一つで，みな同じ言葉である。彼らはすでにこの事をしはじめた。彼らがしようとすることはもはや何事もとどめ得ないであろう。」（創世11：4～6）

人間は，休むことなく，満足せず，気短かな動物であり，非凡な力を備えた巨人である。この言葉を読む時，我々は半ば恐れを抱くのである。「……彼らがしようとすることは，もはや何事もとどめ得ないであろう。」月，火星などあらゆる星を征服しても，人の想像力はとどめ得ないであろう。では，どこへ向けられるのであろうか。

末日聖徒は，太陽系宇宙の外，コロブと呼ばれる最も大いなる星の近くに神の御座があると教えられている。その末日聖徒にとって，人間の想像することに創造の可能性を秘めているということは，とりもなおさず人間が神の子であり，彼らがしようとすることは，何事もとどめ得ないことを証明するに他ならない。天父の子供である人間は，宇宙に神の王国が満ちており，忠実であれば神の有したもうすべてはやがて分け与えられることを知り，心をときめかしているのである。

アブラハムはそれらの王国を見て，次のように述べている。「われ数々の星を見たりしに，それらの星甚だ大きくして，一つの星，神の御座の最も近くにありき。また，多くの大いなる星ありてその近くにありたり。主われに宣いけるは，これらは他の星を支配する星にして，かの大いなる星はわれの近くにあればその名をコロブと言う。われは主なる汝の神なればなり。われは，これを置きて汝の今その上に立つ星と同じ系統に属するすべての星を治めしむ。」（アブラハム3：2～3）

要約すると，アブラハムは，地球が他の天体を支配する星の鎖につながれており，その鎖が最も大いなる支配の星，すなわちコロブの近くにある神の御座にまで達しているのを見たのである。そしてコロブは，あらゆる星，遊星を支配しており，地球はその一つの位に属し，支配されているのであ

る。神はすべてこれらのことを御自身の力で支配したもうてはいるが，実際には一時に一所しか臨みえぬ一個の実在する御方であり，また諸天を支配する星を置きたもうている。しかしながら神はなおこの地球上に住む人々に非常な関心を寄せておられる。それゆえ，人々に御自身を現わされ，ちょうど，人が顔と顔を合わせて話すように，神は人に面を現わし話したもうたのである。

主は言われた，「さて，もし二つのものありて，一は他よりも上にあり。而して太陰は地よりも上にあらば，恐らく一つの遊星または星にして太陰よりも上にあるものあるべし。主なる汝の神は，ただ為さんと欲したもうこと以外に為さんと心に掛けたもうことなし。」（アブラハム３：17）

人は神の子であるから，人についてこのようにも言い得るであろう。すなわち，人は「ただ為さんと欲すること以外に為さんと心に」掛けることはない。

人はその創造力において極限に達しえないという者，また人の命には限りがあって待ち受けているものは死の扉しかないと主張する者がいる。しかしながら，あの巨大なロケットが天に向って突進する姿を見れば，生命は朽ち果てるものでなく永遠であり，人類の進歩も宇宙と同じく限りないことに気づくに違いない。

神が「永遠の生命を有つ者は富めるなり」（教義と聖約 6:7）と言われたことは，人々が宇宙のひろがりを探究すればその謎は次第に明らかにされることを信じ，理解するようになるであろうことをも意味しておられたのである。もし，人間がこれをなし得たとすれば，やがて不死不滅の体を受け，宇宙のあらゆる謎を知らされた時，人の将来はどうであろうか。

現在宇宙を知り得たことによりもたらされた数々の益に対して，我々は何ら異議をはさむものではない。また，将来宇宙計画に含まれるであろう月や他の星への探究に我々は必ずしも関与する必要はない。もし，人間が死すべき状態のままで，他の天界に住むことが適わぬとすれば，我々はその時を神の御手に任さねばなるまい。

我々にとって大切なことは，天父の定められた方法に従って生活することである。そうすれば，この輝ける宇宙は永遠に我々のものとなるであろう。その時こそ，我々は本当の意味でこう言われるのである。すなわち，我々が町や塔を建て始める時，「彼らがしようとすることは，もはや何事もとどめ得ないであろう。」と。

ニュータウンというアメリカのかいたく地の町に馬車をとめると，ジェミーはすばやくとびおりました。兄さんのポールと姉さんのヘスターも馬車からおりて，ジェミーのそばに立ちました。みんながクリスマスのまえに町にきてプレゼントをかうのは，きようがさいごでした。

「一時間したらもどっておいで，いいかい」と馬を木につなぎながらパパが言いました。

「はい，パパ」とジェミーが一ばんさいしょにこたえました。ママはげんきだからだいじょうぶと何ども言っていたけれど，フォーラーおばさん一人に，のうじょうにいるママのせわをたのんできたので，パパがしんぱいしていることがジェミーにはわかっていました。

「いそいで帰らなくてもいいのよ」と，ママは外がみえるしんしつの窓のちかくにおいていたベッドに横になって言ったのです。それからママはとてもやさしくほほえんで，顔ぜんたいが明るくかがやきました。ママをおもいだしたとたんに，ジェミーの胸はあたたかくなりました。ママは世界中で

子供のページ

ジェミーのプレゼント

バーナデン　ビーティー

一ばんゆうかんな女の人だと思いました。じこにあっても一度も不平を言ったことはありませんでした。その時ジェミーはふるえがとまりませんでした。パパとママがある朝町に行ってすぐ，ママをだいてよろめきながらパパが帰ってきたのを見て，ジェミーもポールもヘスターも，どんなにびっくりしたことでしょう。ママの顔はいたさのために青白くなっていましたが，それでもママはほほえんでいました。

「馬がかけ出して馬車がひっくりかえったんだよ」とかんたんにせつめいすると，パパはポールをおいしゃさんをむかえにやりました。

何か月もベッドにねていなければならないことを知ると，ママはその間皆がたくさんの仕事をしなければならないと思いしんぱいしました。

ポールとヘスターのあとからウイルソン百か店に入りながら，ジェミーはポケットの中のお金をさぐっていました。ジェミーはもっとお金がほしいなと思いました。今年のクリスマスにはすてきなプレゼントを買いたいと思っていたからです。

ウイルソンさんはカウンターのうしろに立って小さい箱のよこのねじをグルグルまわしていました。「おはよう」とウイルソンさんが言いました。それからその箱をカウンターの上においてほほえんでみせました。すると，チリンチリンという音がして箱の上の二つの小さな人形がゆっくり円をかいてまわり出しました。

「オルゴールだ！」とジェミーは目を丸くして息をのみました。そしてヘスターとポールを見ました。「ママが小さい時に持っていたのと同じみたいだ。ママが話してくれたのおぼえてる？小さい家のかっこうをして上に小さい女の子の人形がついているのはママのしかないんだ。青い服をきた女の子がついているのは」

ヘスターとポールがうなずくと，ジェミーはウイルソンさんの所にかけよりました。これはママへのすばらしいプレゼントでした。けれどもウイルソンさんがその値だんを言うとジェミーは目をまるくしました。これまでそんなにたくさん

のお金は見たこともありませんでした。

なんてきれいな音なんだろう。小鳥のさえずりみたいだ，とジェミーは思いました。あれをプレゼントしたらママはきっと喜ぶだろうな！　急にある考えがうかびました。そうだクリスマスにママに特べつせいのオルゴールを作ってあげよう。ジェミーは物をつくるのがじょうずでした。パパがとっておいてくれたほしたクルミをけずってジェミーの作った動物を，みんながじまんしていました。

ヘスターとポールがプレゼントをえらんでいる間に，ジェミーは店中を歩きまわってたなの上の物をしらべていました。ウイルソンさんはとうとう待ちきれずにやってきました。「さあてジェミー，君は何がほしいのかね？」

ジェミーはペンキの入ったかん三つとはけと，木工道ぐの箱をゆびさしました。ヘスターが驚いたようすなのでジェミーの考えに不さんせいなことがわかりました。

「自分のじゃなくて，ママのプレゼントを買うのかと思っていたのに」とヘスターはおこったようで，小声で言いました。

「ぼく，これでママにあげるプレゼントを作るんだよ」ジェミーは言いました。

「ふん」，ヘスターは頭をつんと上げて言いました。

「いいわけじゃないのかい」とポールはにやにやしながら言いました。「おまえ，ずっと木工道ぐをほしがっていたじゃないか，ジェミー」

「待ってよ。クリスマスまで待って」とジェミーはさけびました。ヘスターもポールも自分を信じてくれないとわかったので，ジェミーの心はおもくしずみました。

パパはほろ馬車のところで待っていました。

「ママにすてきなプレゼントは見つかったかね」とパパがたずねました。

「ポールと私はみつけたわ。でもジェミーは」とヘスターが言いました。

「ジェミーはほっとこうよ。まるで子どもなんだもの」とポールが口を出しました。

ジェミーはほろ馬車によじのぼりました。ジェミーは，ママが前にもっていたようなオルゴールを作るつもりでいることをせつめいしたいと思いましたが，皆が大きな声でわらっていじめることがわかっていました。ジェミーは必ず作ってみんなに見せてやろうと思いました。

その時から，ジェミーはひまがあると，いつもママにあげるマリスマスのプレゼンを作っていました。小さい家を作るのはかんたんでしたが，うでをのばした少女を木にほるのは大へんめんどうだったので，なんかいかあきらめようとしたほどでした。ジェミーはなんども作りはじめては，とちゅうでなげだしました。けれどもやっと一部ができあがると，じしんがでてきました。

ポールとヘスターはふしぎがっていましたが，ジェミーはこっそりと作っては，だれにもみつからないようにかくしておきました。長いあいだかかって，人形はできあがり，ペンキがぬられました。

クリスマスの朝，夜あけとともにジェミーはベッドからとびおきました。そして小さな木の家にこく物をいれて，あなからかいこのついた小さなポーチにこぼれおちるようにしました。しばらくすると，パパがママをだいて，居まのいすにつれていきました。ジェミーは外にかけ出して行って，ママのへやの窓のすぐそばの大きなかしの木に自分の作ったオルゴールをつるしました。中にもどると，クリスマスツリーのろうそくには火がともっていて，パパはきれいにつつんだプレゼントの上の名まえをよもうと待っていました。

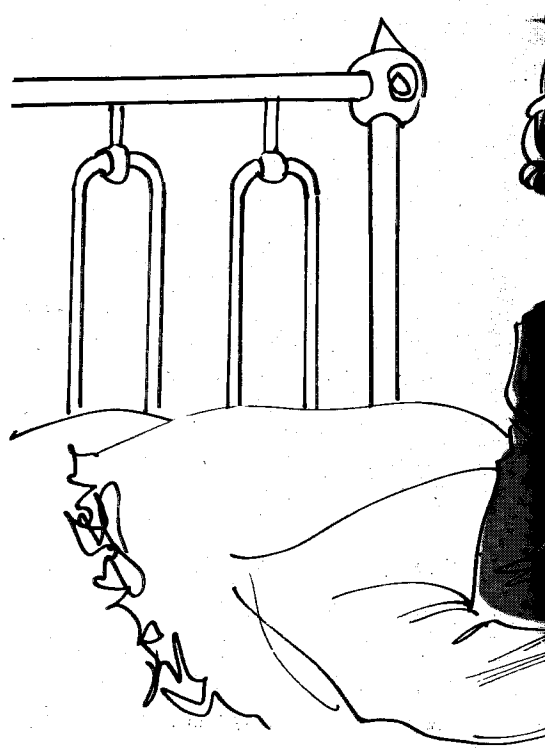
みんなはプレゼントをひらきながら，大きな声でわらったり，ぺちゃくちゃおしゃべりをしました。ジェミーもあたらしいそりと，ねんどざいくの大きなはこをもらって大そうこうふんしていたので，音の出ないオルゴールをママがどう思うだろうと心ぱいする気もちもなくなっていました。

「ジェミー，ママにあげるプレゼントはどこにあるの」とプレゼントがみなひらかれるとヘスターがききました。

「ママのへやにきてよ」とジェミーは言いました。皆より先にまどにかけよった時，ジェミーの言いたいことは，のどまで出かかっていました。外の木のえだにかかっているその小さなきいろのおうちは静かにゆれ，青い服を着た小さな木ぼりの女の子は，まるで生きているようにみえました。

ジェミーはみんなが中に入ってくる音をききました。そしてパパがママをそっとベッドの上におろした時，ベッドのばねのきしむ音がきこえました。

「見て！　小さいおうちよ，なんてかわいらしいんでしょ



う」とヘスターがさけびました。

ジェミーがママのはなすのを待っていると，一わのべにすずめがまいおりて，小さなきいろのおうちのポーチの上にとまって，こく物をつつきました。

「えさばこだ！」ポールがさけびました。

するとその時ママがやさしく言いました。「いいえ，そうじゃないわ」「もっとすばらしいものよ。私が小さいころもっていたようなオルゴールよ」

ジェミーはうれしくて，あたりをグルグルとびまわりました。「ママ，おぼえていたんだね！」とジェミーはしあわせそうにさけびました。そして言いました。「ぼく……音が出せなくて……ごめんなさい」

「いいえ，音がするわ。きいてごらんなさい！」とママが言いました。

べにすずめが頭をもちあげて，鳴いています。「チッチッチッ」

とつぜん，みんなはわらいだしました。けれどもそれは，あたたかな，しあわせそうなわらいでした。そしてとくにいちばんしあわせなのはジェミーでした。

ピンクの化粧台

ウエンデル　J. アシュトン

今夜，私は居間の窓から，町を見おろしています。家々に輝いていたクリスマスのあかりが，静かにふりしきる雪の中に，まったくと言ってよいほど，見えなくなってしまいました。そして，雪がやみ夜空が明るくなった時，町はとても大きなキラキラ輝く宝石箱のように見えました。

私は，半世紀をこえる自分の人生の中にあったクリスマスの日々を思い出していました。

その中でも，最も心に残る思い出というのは，その時には大した意味がなかったのですが，時がたつにつれて，私自身に影響を与えるようになったのです。

それはこういう話です。

当時，私の父は，建築資材会社に勤めていました。私たちの家は二階だての，とんがり屋根のついた，赤れんがの家で，町の郊外にありました。二人の妹は二階の寝室を占領していました。当時上の妹は九歳，下が六歳でした。妹たちは，寝室の窓から，わが家のガレージや，車道を見おろしていました。

父と母は，二人の小さな娘たちにクリスマスプレゼントをする計画をたてていました。妹たちは，それぞれに，鏡と引出しのついた美しいピンクの化粧台をプレゼントされるはずでした。父は会社の近くの家具屋に，お遊び用の化粧台を作ってくれるように頼みました。

妹たちは，二つのピンクの化粧台を見てきっとびっくりすることでしょう。

クリスマスが近づくにつれて，ブロンドの髪をした二人の妹たちは，一年で一番素晴しいクリスマスの朝に，自分達が受け取るプレゼントについて，楽しそうにおしゃべりを始めました。二人共，お人形かしら，それとも私にはスケート靴で，あなたにはそりかしら。新しい洋服か，ナイトガウンかもしれないわ。ひよっとしたら家族みんなで遊べるゲーム用具か，おままごとの食器セットかもしれないわね。

クリスマス・イヴがやって来ました。その夜，私たち六人の子供たちはほとんどねむれませんでした。暗闇の中を父の車が帰って来て車のドアがあいた時，二人の妹は，目を大きく見開いて，窓に自分たちの鼻をぴったりくっつけて車道を見つめました。車の中にピンク色をした何かを見つけて，妹たちは興奮してベッドへもどって来ました。

私たちの家では，クリスマスの朝に子供たちは一列に並び，それから母の合図で居間に入って行くというのが習慣になっていました。居間にはクリスマス・ツリーがかざられ，プレゼントは，部屋のあちこちにある椅子の上か，そばに置いてありました。二つの椅子の間に，ピカピカ光る鏡のついた化粧台がありました。上等の松材で作られ，あざやかな色のこの化粧台は良い香りさえ放っていました。

でも，そこには一台しかありませんでした。母は二人の妹を自分のそばに引寄せ，涙ぐんでこう説明しました。

「二つのピンクの化粧台があったのよ。二人に一台づつね。ところが，ゆうべ，お父さんは，父親のいないある家族のことを思い出されたの。お父さんは，その人たちがどんなクリスマスを迎えるのだろうかと考えていらしたわ。そこにも二人の女の子がいるのよ。お父さんは，ピンクの化粧台をその人たちの家へ持って行こうと決心なさったの。だから，これをあなた達二人で一緒に仲良く使って欲しいわ」。

妹たちはそれを自分たちの寝室において，15年間もの間一緒に使いました。それで一緒に遊びもしました。一人が自分のハンカチやストッキングを一つの引出しに入れると，もう一人は別の引出しにしまいました。

そのクリスマスはもう40年も前のことです。この妹たちも今ではそれぞれ自分たちの家庭を持っていますが，それでもまだ，私たちは集まるとピンクの化粧台を一緒に使っています。そしてその娘たちもまた，そうしているのです。母親になった妹たちが自分の娘たちに，なぜその化粧台が特別なものなのか，そのわけを話してきかせるからなのです。

何年間か，そのピンクの化粧台は一人の妹の家の地下室の，物置にありました。クリスマスに私たちが集まった時にはいつもピンクの化粧台がそこに置いてありました。

「私たち二人は，あのピンクの化粧台のおかげで，年とともにとても親しくなることができました。娘たちもおなじです」と一人の妹が最近私に言いました。

ピンクの化粧台は，私と，私の子供に，大切なことを教えてくれました。もう一台のピンクの化粧台もおなじことを教えてくれました。

人生で，私たちが一番豊かなものを得ることができるのは，私たちが人に与えたものからであるということを，ピンクの化粧台はいつも私に思いおこさせてくれるのです。

心のらしんばん

メーベル　ジョーンズ　ガボット

もしあなたが，これまで10年あるいは11年，あるいはまた８年か９年生きてきたとすれば，あなたは冒険のおおい世界にすんでいることに気づくでしょう。べつにまい子になるような深い森とか，道がまったくなく，足あとすらないようなさばくのことを言っているのではありません。毎日生きるという危けんのことを言っているのです。赤しんごうがないと，私たちは，「ぶさほうなこと」をしたり不注意の沼にはまりこんだり，あるいはまた，わがままになったり，不しんせつになったりするものです。

私は一つの道しるべをみつけました。たぶんあなたのたすけにもなることでしょう。私の道しるべというのはらしんばんのようなもので，じしゃくのはりがいつも北をさしているのです。私のらしんばんでは，北きょく星は「しんせつ」というものです。それは何をするかのかぎであり，道にまよった時の道しるべなのです。

私が「不注意」の沼にはまりこんだり，くつをぬぎっぱなしにしてへやのすみにバットやミットを投げたり，床の上に服をほうったりする時にも，私のらしんばんのはりは北をさして，しんせつにしなさいと言っているのです。私が自分のものをほうり出して，お母さんやお父さんやお姉さんたちにかたづけさせるのは，少しもしんせつなことではありません。家の中をちらかすのはとても不しんせつなことなのです。「しんせつにしなさい」と私のらしんばんは言っています。「いろんなものを，もとのところにおいておきなさい」と言っているのです。

私の人生で，一ばん大きなぼうけんの一つは，言葉をコントロールすることです。小さなリーグの野球のゲームを見ていて，私が，ピッチャーを「へただ」と思った時，アンパイアはピッチャーのなげるたまぜんぶを悪いと言い，コーチは何どもピッチャーに注意します。そのような時私はたえずらしんばんに心をとめておかなければなりません。「しんせつ」です。おぼえていますか。そのピッチャーは，きっといっしょうけんめいしているのでしょう。私はピッチャーに向ってしんせつなことばを言うことにします。アンパイアは友だちがひつようです。彼をはげますために，「しんせつにしてあげようと思います」。

どんなときも，人をきずつけるようなことを言うひつようはまったくありません。けれども，それをおもい出すのがむずかしい時があります。たとえば，ボブがちょうどもけいのひこうきをつくりおわったときのことです。ボブは大そうじまんして，私に見せてくれました。私はらしんばんを見ずに言ってしまいました。「ほんとうにうまくできたね。でも，フランクがつくったのを見てごらんよ」らしんばんを見るのがおそすぎたのです。私はへまをしてしまいました。ボブをきずつけるひつようはなかったのです。でも次からはらしんばんをもっとよくみるようにしましょう。そして，私は，「しんせつなことをいいます」

ぶさほうは時々私をつまづかせる危けんなものです。もし次のことを思い出せるなら，しんせつによって，私はいろんなしょうがいをのりこえることができるでしょう。たとえば他の人の話が終ってから自分が話すようにしたり，自分一人できいている時にはラジオの音を低くしたり，かぞくと一しょにテレビを見る時間をわけあったりすることなど。もし，らしんばんに自分のこうどうの道あんないをたのむとすれば，私はまずさいしょに他の人のことを考えます。そしてお姉さんにとこやへ行きなさいと言われた時には，らしんばんをむししして，大げんかをすることのないように，お姉さんのいうことをきくようにします。

お母さんは，家の中で私のらしんばんが自どうてきにはたらけば，私がみんなの前で，大声で話したり，げらげらわらったり，ガムをかんだり，道ろでさわいだり，教会でよくお話をきかなかったり，らんぼうなことをしたりしないでしょうにといいます。しんせつにすることによって，こういうことはみんななおるでしょうし，私のおこないがどこにあっても良くなるでしょう。たしかに，私のらしんばんがいつもはたらくようにしておくひつようがあると思います。あなたも，やってみませんか。

日曜学校

『万人の希望と喜び』

エバリン　M.　サンドバーグ

ペテロの受けた示現と証により，福音をユダヤ人だけに教えるという初期の慣習が変えられ，その結果，イエス・キリストの御名によるバプテスマを通して罪の赦しが与えられるということは，「万人の希望と喜び」となった。

キリストが導きと教えを施しておられた時の奇跡的な出来事は万人の知るところである。しかし初期のキリスト教会の発展の歴史の中には，しばしば見落され，無視されている時代がある。それは，キリストが導きと教えを施されていたその時代に引き続く大切な時代である。この時代の出来事は「使徒行伝」の中に記録されている。「使徒行伝」には，使徒たちに働きかける聖霊を通して，救い主の導きと教えが引き続き行われていたことが記されている。これは「聖霊の福音書」と呼ばれてきた。この記録は，異邦人の間でのパウロの伝道とユダヤ人の間でのペテロの伝道について語っている。「使徒行伝」にはまた，示現によって改宗し，のちに全世界に福音をたずさえていくという大切な責任をになったペテロの話が記録されている。

多数の改宗者，多数のバプテスマ，これらはペテロの力強い証と，彼の説教に聞き入る人達の心に働きかける聖霊の力によるものである。一日のうちに，三千人が信じバプテスマを受けた。また他の日には五千人が福音を聞き，そして信じた。

「使徒行伝」に記録されている時代以前には，福音はユダヤの間だけで説かれていた。異教徒の習慣と思想がユダヤ人の生活に入りこむのを避けるため，教会の指導者達は，長い間，ユダヤ民族が他の民族と親交を持つことを，不法行為であるとしていた。最初のクリスチャンはユダヤ人であったので，彼らはこの規律を当然のこととして，生活の中に実践した。しかし，ペテロがヨッパで驚くべき示現を見た時，キリスト教の歴史における大きな転換期がやってきたのだった。

この示現の中で，ペテロはあらゆる種類の動物が彼の方に降りて来るのを見た。その多くはユダヤの法律によって「汚れたもの」とされているもので，食物としては不適当であった。そして声が聞えてきた。「ペテロよ。立って，それらをほふって食べなさい」。ペテロは最初，抗議して言った。「私はいままでに，清くないもの，汚れたものは，何一つ食べたことがありません」。

すると答えがあった。「神がきよめたものを清くないなどと言ってはならない」。（使徒 10：9—16 参照）

ペテロは，三度繰返されたこの言葉を，なおも思いめぐらしていると，みたまが彼に言った。「ごらんなさい，三人の人たちがあなたをたずねてきている。さあ，立って下に降りためらわないで，彼らと一緒に出かけるがよい。わたしが彼らをよこしたのである」。（使徒 10：19，20）

ペテロはヨッパの兄弟たち数人をともなって，人々と共に出かけた。その人たちは，コルネリオの要請でペテロのところに来たのだった。コルネリオは，ローマの役人で「信心深く，家族一同と共に神を敬い，民に数々の施しをなし，絶えず神に祈をしていた」。（使徒 10：2）

コルネリオは祈っていた時，そこに一人の神の御使が現れ，コルネリオの祈りが確かに聞き届けられ，そして彼の施しが知られていると告げた。御使はコルネリオにペテロを呼びに行くように命じた。そしてペテロを見つけることのできる場所の名を示し，「ペテロがあなたに，なすべきことをつげるであろう」。とつけ加えた。（使徒 10：1—6）

このように二人の義人の上に聖霊が宿り，神の偉大なみこ

ころに二人共気づかずにいたが，それでも喜んで正義へと導かれたのである。

ペテロがカイザリヤについた時，コルネリオは，「出迎えて，彼の足もとにひれ伏して拝した。するとペテロは，彼を引き起して言った，お立ちなさい。わたしも同じ人間です」

（使徒 10：25—26）

ペテロが，家に入って行くと，そこにはコルネリオの親せきの者や友人が大勢集っていた。ペテロは彼らにあいさつして言った。

「あなたがたが知っているとおり，ユダヤ人が他国の人と交際したり，出入りしたりすることは，禁じられています。ところが，神は，どんな人間をも清くないとか，汚れているとか言ってはならないと，わたしにお示しになりました。お招きにあずかった時，少しもためらわずに参ったのは，そのためなのです。そこで伺いますが，どういうわけで，わたしを招いてくださったのですか」。（使徒 10：28，29）

コルネリオは，自分の見た示現の中で受けた教えについて語り，ペテロはこれに対して答えた。

「神は人をかたよりみないかたで，神を敬い義を行う者はどの国民でも受け入れて下さることがほんとうによくわかってきました。」（使徒 10：34—35）

ペテロはキリストに対する証と自分の神聖な使命について語り続けた。

「あなたはあの御言をご存じでしょう。……神はナザレのイエスに聖霊と力とを注がれました。このイエスは，神が共におられるので，よい働きをしながら，また悪魔に押えつけられている人々をことごとくいやしながら，巡回されました。予言者達もみな，イエスを信じる者はことごとく，その名によって罪のゆるしが受けられると，あかしをしています。」（使徒 10：37，38，43）

ペテロがこれらの言葉をまだ語り終えないうちに「それを聞いていたみんなの人たちに，聖霊がくだった」。

ヨッパからペテロと一緒にやって来た兄弟たちは「異邦人たちにも聖霊の賜物が注がれたのを見て，驚いた。それは彼らが異言を語って神をさんびしいるのを聞いたからである」

この驚くべき事件を見て，ペテロは「みたま」に導かれて大声で言った。

「『この人たちがわたしたちと同じように聖霊を受けたからには，彼らに水でバプテスマを授けるのを，だれがこばみ得ようか』。こう言って，ペテロはその人々に命じて，イエス・キリストの名によってバプテスマを受けさせた……」

（使徒 10：47，48）

異邦人が教会に加入することを許されたと聞いた時の，ユダヤの兄弟たちの驚きを想像して下さい。ペテロがエルサレムに帰ったとき，彼らはこう言ってペテロをとがめた。

「あなたは，割礼のない人たちのところに行って，食事を共にしたということだが」。

そこで，これらユダヤの律法からの根本的な離反についてすべての状況を説明する必要をペテロは感じた。彼は自分が受けた示現と，コルネリオからの招きについて語り，次の言葉で彼の説明を終えた。

「そこでわたしが語り出したところ，聖霊が，ちょうど最初わたしたちの上にくだったと同じように，彼らの上にくだった。その時わたしは，主が「ヨハネは水でバプテスマを授けたが，あなたがたは聖霊によってバプテスマを受けるであろう」と仰せになった言葉を思い出した。」（使徒 11：15）

ペテロは，至高なる神の御心を知り，こう断言した。

「このように，わたしたちが主イエス・キリストを信じた時に下さったのと同じ賜物を，神が彼らにもお与えになったとすれば，わたしのような者が，どうして神を妨げることができようか。」（使徒 11：17）

そこでユダヤの兄弟たちは，「これを聞いて……，神をさんびして，それでは神は，異邦人にも命にいたる悔改めをお与えになったのだ。と言った」（使徒 11：18 参照）

その時以来，福音は多くの地方，多くの国民にのべ伝えられた。

キリスト自ら，人々に教えと導きを与えておられた時に，なされた奇蹟の中に，私達は，完全なる人間を通して表わされる神の力を見ることができる。また「使徒行伝」には，主の業に召され，聖任された資格ある人を通して神の力が働いているのが見られる。しかし，これらの使徒たちは，この重要な区別となる特質を除けば，平凡な人間であった。私達はまた，福音が選ばれた少数の者から多くの者へと，全世界に広がって行ったのを見ることができる。

福音は，キリスト教の最も初期の時代においてさえ，万人に与えられるものとなった。それはあたかも，きたるべき万人の希望と喜びを創造主が意味していたかのようである。

12月のサクラメント・ジェム

大人日曜学校

「神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで，永遠の命を得るためである」（ヨハネ 3：16）

子供日曜学校

「愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は，神から出たものなのである」

（Ⅰヨハネ 4：7）

ポールの サンタクロース

ドンル　ドゥイット

寒さで震えながら，ポール・サントスはぶつぶつひとり言を言って通りを歩いていました。「まったく，けっこうなクリスマスイヴだよ」「いったいみんなはぼくを，いやサンタクロースを，なんだと思ってるんだろう」ポールはたくさんの包みのはいった重い車を引くのを恥しく思いました。大勢の人々で混み合っている歩道をさけて，ポールは長ぐつで固い氷を砕きながら路ばたのみぞをとぼとぼと歩きました。

「ちえっ！なんだっていうんだい。まったくばかげているよ，クリスマスなんて！」そう思うと彼の足は早くなりました。

ポール・サントスは，大きな町のはずれにある裕福な食料品店の５人兄弟の末っ子でした。お父さんはアントニオ・サントスといい，そのあたりの有力者でした。お父さんの名誉も，やさしいお母さんの忍耐強い古風な気質も，ポールには少しも関係のないことでしたが，ポールは怒りっぽい青年で学校では，金持ちの友達から，あざけられるのがいやでした。このクリスマスイヴに，見捨てられた人々のためにといって親は，子供を親切なよう精にしたてて，情け深い恩人顔をしている，そうポールは思いました。人々のあざけり声が耳につき，ポールは，しばらくの間不平をこぼしていました。すると，どこか遠くから「さあ，ホールの飾りつけをしよう」という声が，さわやかな夕べの中に聞こえてきました。

「なあ，みんな，サントスがぼくらといっしょにパーティーへ行けないなんて，まったくかわいそうな話じゃないか。ママの言うことをきいて，包みを持ってどこかへ行かなきゃならないのかい，サンタクロースさん？」

ポールの目には涙があふれてきました。そして，走り出しました。氷のように冷たい吸い込んだ空気が肺をつきさし，せきこみながら彼は歩道のへりをけりつけました。

あたりが暗くなるにつれて，気分もしだいにゆうつになり，めざす家のあるみすぼらしい通りに入るにつれて，ポールはますますイライラしてきました。しかし，ポールは決して悪い子ではなかったのです。まったくききわけの悪い子供というわけではありませんでした。「ママとわたしのためなら，

きっと行ってくれるね。そうだろう，ポール？」お父さんにこう言われてポールはやってきたのです。

ポールは他にお父さんの言ったことを考えてみました。「そこの家は，お父さんが二年前に亡なり，お母さんは身体が弱くて，とても貧しいんだよ。それにおまえほど幸福じゃない小さな子供が二人いるんだ。だからこれをその子たちに持っていってもらいたいんだよ。だけど，どこから来たかは絶対に言っちゃいけない。人に物をあげる時は，口をつぐむものだ。」

「幸福ってなんだろう」ポールは思いました。「ちっとも幸福なんかじゃないよ」。

やっと目的の家を見つけました。あまりにも小さく，あまりにも古ぼけた家なのでポールは驚いてしまいました。身震いをして，車を引き寄せながら，彼は暖かいがっしりした自分の家のことを考えました。中からは，きれいな歌声が聞えてきます。「ねどこもなく，イエスさまは，かいばおけにねんねした……」ポールは，のどにこみあげてくるものを感じました。

ポールはドアをたたきました。歌がやみ，少ししてからドアがあきました。ドアをあけた婦人の背はポールよりも低くやせていて彼の半分もないようでした。母親のぼろぼろになった服にしがみついている幽霊のような小さな子供たちは，目だけがギョロギョロしていました。

「なにかごようですか」

ポールは息をのんで言いました。「実は，みなさんに楽しいクリスマスを送っていただきたいと思っている，ある友達のつかいでやってきました。神のみ恵みがありますように」

ポールがいくつかの包みを持ってきて，むき出しの床の上に置くと，婦人は驚いたようにわきに身をよけました。

ポールはその家を去りながら，最後にもう一度ふり返ってみると，ドアのそばに凍りついたように立ちすくんでいた三人の姿が急に動き出しました。少さな女の子が一つ包みをあけると，弟も別の包みをあけました。

「おかあさん，食べ物よ！　うわあ，おあかさん，おかあさん，これ私の洋服よ！　まあおかあさんにも，すてきなコート！　やっぱりサンタが来たんだわ！」

やせて小さな母親は，あまりの感激に胸がいっぱいになりその荒れはてた家の中にもたらされた恵みにあらわす言葉もなく，ポールの後姿に向かって叫びました。「主があなたを祝福したもうように。あなたは私の祈りに答えて下さいました。主のみ恵みが豊かにありますように！」

「おかあさん，こっちへきて！」

母親はドアをしめました。

人々は，アントニオの息子，ポール・サントスが，からになった赤い車を引きながら顔中を光り輝かし，歌声を響かせて歩いていく姿に目をとめました。「もろびとこぞりて，迎えまつれ！」

知恵の言葉

管理監督

ジョン　H.　バンデンバーグ

合衆国西部のグランドキャニオンを訪れた人なら，この大峡谷の広大さに畏れをいただくことでしょう。幅6キロから30キロにおよび深い所では淵から2キロ以上あります。これを見た人は，このように地表が割れたのは，非常な力か激しい震動によるのだろうと考えることでしょう。

けれども，現在は谷底を小さくリボンのように流れてはいますがコロラド川の絶え間ない浸食によってこの大峡谷は形成されたことが報告されています。

これと同じように，規則を破る小さな行為や定められた律法に背くことが，私たちの人生に悲しいみぞを作ります。

136年前，私たちの人格を形成し，永遠の生命に到達するための行動と考えを導く啓示が与えられました。この啓示とは，「これ一つの智恵の言葉なり，……すなわち，これらは今聖徒と呼ばれ，或いは聖徒と呼ばれ得る者にして虚弱なる者，およびすべての聖徒中最も虚弱なる者の能力に適応する約束を有て原理として下さるものなり。見よ，誠に主はかくの如く汝らに告げたもう。すなわち，末の世に於て悪しきを企つる人々の心中に現在存し，また将来在らんとする悪の企図とのために，われ啓示によりてこの知恵の言葉を与えて今や汝らを警め，また汝らを預め警むるものなり。」（教義と聖約89：1，3～4）です。

主は，とりわけタバコ，強き飲料，熱き飲料の使用について警告されています。知恵の言葉は「虚弱なる者の能力」に適応されるので，タバコや飲料にどんな害があるかを質問する人もいます。多くの人々は，自分の生活を振り返って，アルコール中毒，癌，心臓病に冒された生活，特に主の言葉に聞き従わずもたらされた霊的損失を思い起こし，この質問に答えることができます。

私たちは若人の肉体的健康だけでなく，霊的健康についても関心を寄せているのです。知恵の言葉は，「今聖徒と呼ばれ，或いは聖徒と呼ばれ得る者にしてすべての聖徒中最も虚弱なる者の能力に適応されます。神の王国で進歩したいと思うならば，知恵の言葉はそれを始めることのできる道です。知恵の言葉を守ることは，人格形成への道です。知恵の言葉を破るその結果は重大です。なぜなら，その人は天父の霊的な世界から放り出されてしまうからです。

こういう言葉があります。

「健康を害すれば，何かを失う。人格を失えばすべてを失う。」

教会の指導者たちが知恵の言葉を強調するのは，それが最大の戒めであるからでなく，霊性を築く第一歩だからです。若い神権者，教会の若い女性は，「末日に謀り事多き人々の心に宿る悪とたくらみ」の誘惑をしりぞけなければなりません。

こういった悪の力により，若人は喫煙，飲酒，一杯のコーヒーや紅茶を何も悪いことではないと信じこみ，その結果悪のたくらみを広めさせるために何億というお金が費されているのです。けれども，主の言葉ははっきりとしています。どんな主張や言いわけやスローガンも主の戒めを変えることはできません。主は僕を通して次のように言われました。

「あなたがたは神の宮であって，神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。もし人が，神の宮を破壊するなら，神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら，神の宮は聖なるものであり，そして，あなたがたはその宮なのだからである。」（Ⅰコリント3：16～17）

主は私たちを愛するゆえに，私たちの霊の宮を汚させようとする罪の力に対し，警告を発したもうているのです。知恵の言葉は，教会の若人にとっての原則であり，その上にこそ人格を築き上げることができるのです。

信頼と従順を学ぶ家庭

私たちは，約7年前娘が幼児の祝福を受けた，5月の美しい日曜日のことを幾度となく思い出します。若い軍人だった父親は，叔父と監督と共に娘を見，名前と祝福を与え，さらに父親としての祝福を授ける権威をもって，主の御霊により頼み，神権者の輪の中に立って力づけられながら言いました。

「私はあなたをメリッサ・マドセンと命名し，父親として私に与えられている唯一の権利と特権をもって，あなたを祝福いたします。」その儀式が終った時，若い両親の娘に対する強い望みは，天父のもとに結び固められたのです。

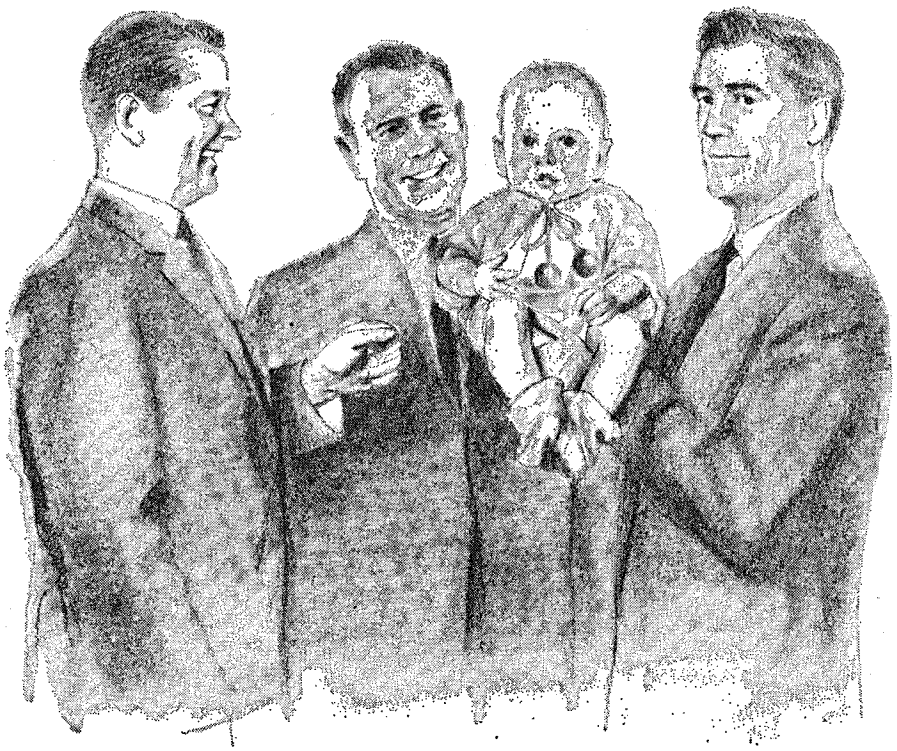
リチャード H. マドセン
ドラリー D. マドセン

その後まもなくのこと，私たちはさきの出来事をよく考え私たちの責任はメリッサを従順な娘に育て，両親として願った祝福が受けられるように準備してあげることだと思いました。天から授かった賜を，責任ある従順な人に育て上げて初めて，真の幸福が私たちに訪れるのです。

6年の間メリッサのおかげで，私たちは信頼，尊敬，従順正直という言葉の意味を絶えず心の中であらたにしてきました。6歳の子供の目や耳は，両親がこれら昔からの教訓を，神聖なものとしているかどうかをよく見ているものです。

メリッサが，遊んでいて頭に深い傷を受けた夜のことをよくおぼえています。私たちは整形外科医にみてもらうため，車で病院へかけつけました。しばらくすると，看護婦や，医者，車を押す人，付添人，その他当惑した表情の人々がまわりを囲む中に寝かされて，メリッサは目をさまし，おびえていました。父親の手をつめで傷つくほどつかみ，母親の慰めるような顔をじっと見つめながら，医者が切り口を縫い合せ

両親が



子供に

た時，メリッサは尻ごみをしたり泣いたりせずに横になっていました。恐ろしく混乱した中で，彼女が両親を信頼するという教訓を学んだことは明らかでした。そして，それがメリッサを落ちつかせたのです。

メリッサ — 責任を果たす

メリッサが両親に対する従順を示したことにより，両親も娘を信頼するようになりました。ある朝，父を職場に送り届けた後，ワサッチ・ブレバードを車で走っていると，私の家の後にある山が火事だと教えられました。何百人もの人がやぶの火を消そうとしているように見えました。火事は家のすぐ後でした。わめき声や騒音の中を通り道路を上って来ると，消防車が家を囲んでいました。急いで車をとめると，母はこの火急の事態をなんとかしなければならないと思いました。また，自分と一緒にいた4人の子供たちも守らなければならないと思いました。すばやく，何も言わずに6歳のメリッサに赤ん坊を抱かせると，他の子供たちの手をとって近所の家へ向かいました。彼女は最年長のメリッサに，自分が戻るまで妹たちの世話をするように言いつけました。小さいながらもメリッサは，すぐに自分の責任を理解して赤ん坊をなだめ，2人の妹を隣家で安全に守ったのです。

延焼の危険がなくなり，消防車のサイレンが鳴りやみ，夜の静けさがおとずれると，小さなメリッサは両親に，こわかったことや母親と家の無事を心配していたことを打ち明けました。彼女は自分に与えられた責任を理解し，母親の言いつけに従い，後でこわかったことを慰めてもらえる時まで待っていたのです。母親が6歳の娘に与えた大きな責任は，「第二の天性」とも言うべきものでした。母には，メリッサはこの仕事ができることがわかっていました。メリッサは言いつけに従うことを知っていました。

ティモシー — チャンスは2度ない

両親として，子供が家庭のきまりに従う姿を見るほどうれしいものはありません。家庭でのきまりは，従順な子供を育てる上での基礎となるものです。6，7歳になると，家庭での食事時間や，寝る時間を守ることができます。おもちゃで遊ぶ時には新しいおもちゃを使ったり，ゲームをする前にはそれまで使ったおもちゃを片づけなければならないこともわかります。子供というものは，遊びのきまりに従い，友だちを大切にすることによって，家庭を大切にすることを学びます。また友だちの家に呼ばれた時には，出かける前に母親の許可を得たり，友だちの家から自分の所在を母親に知らせな

与えうる最大の贈り物は信頼と従順を学ぶ家庭である

ければならないことを知る必要があります。

健康の法則は，子供の成長にとって大切なものです。食事前に手を洗い，食後に歯を磨き，適度に入浴して体を清潔にし，戸外で活発に活動をし，夜は十分に休息をとるといった健康に良い習慣をつけることは簡単です。

警察官，日曜学校の先生，妹や弟，隣人など，他人を大切にすることは，両親の模範を見習って得られるものです。神様の戒めを尊重する気持は，天父に対する祈りを通して，子供の心に育まれてゆきます。子供が家族の祈りをするのを聞くことは，両親にとってこの上もない喜びです。

最近私たちは新聞で，ティモシーというメリッサと同じ年頃の男の子についての記事を読みました。ある晩，母親は下の２人の子供が鎮静剤を飲んでいるのをみつけました。ティモシーは何も飲んでいないと言いました。母親は３人の子供を病院に連れて行き，２人の子は胃を洗浄しました。ティモシーはなおも自分は飲まないと言い張るので，胃を洗浄しませんでした。子供たちは皆帰宅し，床につきました。朝になって母親が子供たちを見に行くと，下の子供たち２人はすっかり直っていましたが，ティモシーは死んでいました。この幼ない子が，従順という人生の大いなる教訓を学ばなかったことは，悲しむべきことです。嘘のわかるのが遅すぎましたチャンスは２度ないのです。

両親と子供のために

ベンジャミン王は，死ぬ少し前に，多くの親や子供たちに話しました。

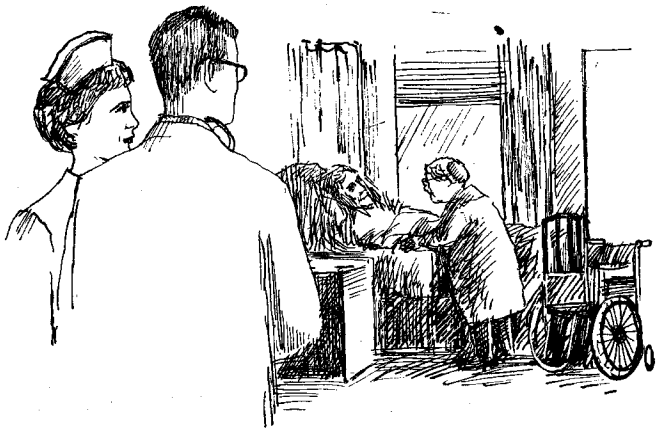
「……またお前たちは自分の子供らが神の律法に背き互いに争ったり戦ったり……，お前たちは自分の子供らに真の道を行う事と……互いに愛し互いに助けねばならぬ事とを教えるであろう」　（モーサヤ４：14〜15）

これが両親に与えられた勧告であるならば，子供にとってもよい戒めであるはずです。親と子がこの訓告に心をとめてこそ，幸福がもたらされます。両親は，絶えず与えられる天父よりの助けと聖霊の賜を受けて，模範による導きと教えを与えることにより，この貴い霊が成人になってゆく時に安心感を覚えるのです。６，７歳の子供が，神の戒めや家庭のきまり，社会のルールに従い成長し，進歩する時に，両親の喜びは大きいものです。

両親は子供を愛し，天父の導きを受けて，子供たちが幼児の時に受けた祝福と約束をよく理解できるように助ける努力をしなければなりません。主は，子供が善いことをする時にその両親に大きな喜びを与えて下さいます。子供の祝福は両親の祝福につながるものなのです。

わたしをあなたの心に置いて印のようにし，あなたの腕に置いて印のようにしてください。愛は死のように強いからです。　（雅歌　8：6）

愛の力



リンゼー　R.　カーチス

その日は肌寒い，じめじめとした何とも言い表わしようのない，ふつうの医者なら誰でも，忘れてしまいたいような夜でした。しかし，私には決して忘れられない夜でした。

かれこれ3ケ月の間，私の父は病気のため足を動かすことができず，一時的にでしたが話も途切れがちでした。足は回復する見込みもないかのように思われました。しかし，父は幾分途切れがちでしたが徐々に，話せるようになりました。

94歳の年まで，父は充実した実り多い人生を過ごしてきました。そして父は，母にとって昔からの忠実な恋人であり，10人の子供には少々甘やかしすぎる父親でもあったのです。かなりの高齢でしたが，私たち子供や孫たちは皆，以前の父のような頑健な体を取り戻せるよう願い，祈りました。

大家族の中でただ一人医学にたずさわる者として，私は父を家から60キロも離れた病院に入院させていましたので，父の近くにあって，より一層注意して看護することができました。しかし，生きて再び家へ戻ることはできないことが次第にはっきりしてきました。手あつい看護の甲斐もなく，3ケ月後には，かつては強健だった父の体は，長い間よく父に仕えてきて，今では，自分で直し得ないことを物語っていました。横になって，休息をとりたいといっているかのようでした。

そして今やこのおそろしい真夜中に，父の脈は弱くなり，ほとんど感じられなくなりました。体温は平熱以下にまで下りました。血圧はさだかでなく，ゆっくりと下っていきました。これらの反射作用が一つずつ消え失せた時，それは生命の衰えを示していました。回復の希望もないまま3ケ月の間闘ったあげく，父の雄々しい心をもってしても，もはや回復ののぞみがなくなったことがはっきりしたのです。父は臨終の床にありました。

私がまっ先に考えたことは，母を嘆かせてはいけないということでした。というのも，母の健康状態は思わしくなく，最も良い時でさえ，あまり安心できる状態ではなかったからでした。母の眠りを妨げることは良くなかったし，60キロの旅に，寒い晩外へ連れ出すわけにはいきませんでした。父が死ぬ前に会うことはできないにちがいありません。そして，もし父が死ぬ前に到着できても，目をさましそうもない深い昏睡状態にあって，医者も手の施しようがない最悪の状態にあるのを見るだけでした。

しかしその時私はふと考えました。66年間もつれそった両親は，父の現世での最後の一時を一緒にいたいと思うだろうと。たしかにこれは神聖な権利であり，私が考えつくいかなるこの世的な理由よりも重大であったのです。私は，もし私が彼らのこの特権を否定したなら両親は私を許してはくれないだろうと思いました。

大変な努力をして，私の母は家から病院までの旅をしたのです。母は急いで，夫のベッドのそばに車椅子に乗ってきました。何か重大なことがある時には，母はどうしても車椅子から立ち上らなければなりませんでした。母は車椅子からようやく体をおこすと，自分の足で立ちました。ふらついた足で立って，母は父の青白い顔を傾け，以前に何度となくそうしていたように，父の薄くなった灰色の髪の毛をやさしくなでつけました。母は涙もみせず，すすり泣きもしませんでした。ただ，顔をうつむけると父のひたいにやさしく接吻し，それから耳もとで父に話しかけました。「お父さん，あなたを愛していますよ」

父は晩年，次第に耳がきこえなくなったことを悲しんでいましたが，母が話しかける時にはいつも聞きとることができました。そして今も，この死に臨んでいる人に，素晴しいことが起こったのです。急に，けれどもゆっくりと，涙が彼の目にあふれたのです。涙が頬を伝わりおちた時まさに脈が速くなったのです。血圧は上りはじめ，反射作用はゆっくりともとにもどりました。はじめはほとんどわかりませんでしたがたしかに父は昏睡状態から目をさまし始めました。

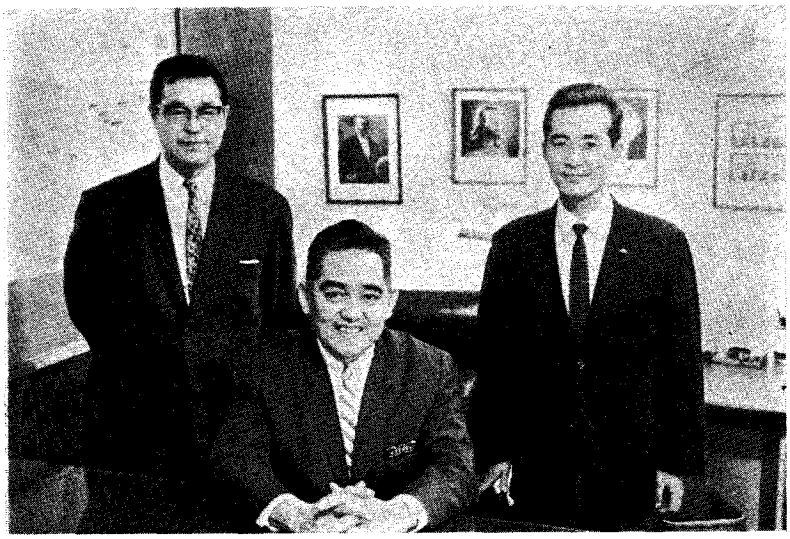
我々は母一人を残して部屋を出ました。

我々が戻った時，父は再び昏睡状態に入っていました。けれども母は言いました。

「私たちはとても大切なことについて一番素晴しい話をしました。」

医者でなくてもあなた方は，地上で生命と死の間にあるみぞに橋をかけることができるただ一つのものが「愛」であると，知ることができるのです。

伝道部長会メッセージ



日本沖縄伝道部

（岡　崎，鈴　木，中　村）

11月10日　マッコンキー長老をお迎えして開かれた特別大会において，中村晴兆兄弟が第二副伝道部長に任命されました。

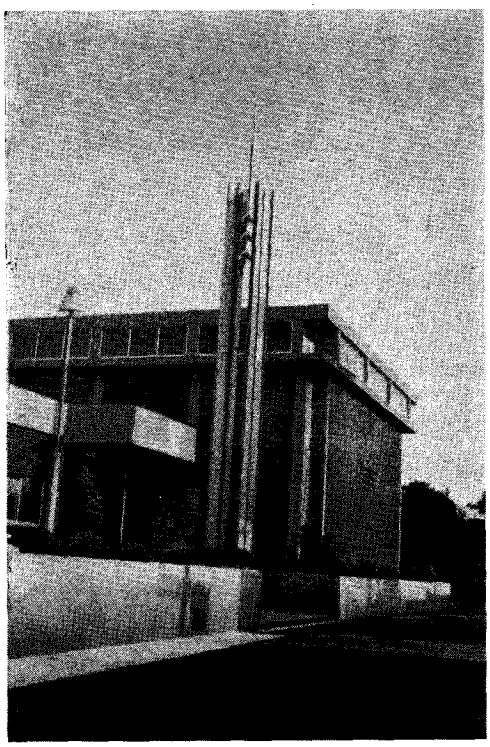
「クリスマスのプレゼントに何が欲しい？」と問われたら貴方は先ず何とお答えになるだろう？　家？車？人形？キャンディー？「永遠の生命」と答える人は数少ないであろう。この世で最大最高の贈り物，……それは神より遣わされたイエス・キリストであった。「神はそのひとり子を賜わったほどにこの世を愛して下さった。それは御子を信ずる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るためである。神が御子を世につかわされたのは世をさばくためでなく，御子によって，この世が救われるためである。（ヨハネ３：16～17)。神様は御子を信ずる者が一人も滅びないように，自分の息子を最高のプレゼントとして私たちに与えて下さったのである。

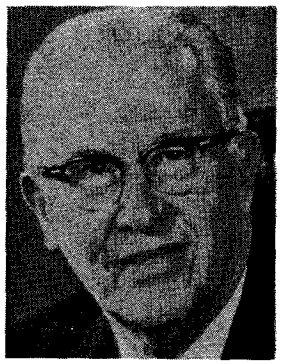
「人がその友のために自分の命を捨てること，これよりも大きな愛はない」（ヨハネ16：12)とキリスト御自身も言われているように，この偉大な愛の贈り物，救いの計画が天上び私たちに知らされた時，神と共にあって私たちは大いに喜び歓声をあげたのであった。しかるに今日，この偉大な贈り物を軽視し，喜ばない風潮が全世界を強力に支配しようとしている。国は国に敵対し戦争を起し，国内では騒乱，公共物の破壊，殺人，誘拐事件等，末日における主の予言を成就するかの如くすさまじい事件がおこっている。他人を思いやる温かい愛の気持は衰ろえ，ひからびた無味乾燥な人間が作られつつある。このような時代にあって私たちは一体何を目標に生きれば良いのだろうか？

ここに至って天父の偉大な贈り物，主イエス・キリストを想い起すのである。「すべて重荷を負うて苦労している者は，わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしのくびきを負うて，わたしに学びなさい。そうすれば，あなたの魂に休みが与えられるであろう。」（マタイ11：28～30)

「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは世の与えるようなものと異なる。」(ヨハネ14：27)私たちが今一番望んでいるものは心の平安ではないだろうか？　他人が自分を思いやってくれる愛の心ではないだろうか？　自分に平安が欲しければ他人も欲しいに違いない。自分に世の中の平和が欲しければ他人も欲しいに違いない。従って，平和を作る者でなくてはならない。キリストはこの道理を誰にでも分る言葉で説いておられる。「だから何事でも人々からして欲しいと望むことは人にもそのとうりせよ，これが律法であり予言者である」これこそキリストの精神であり，クリスマスのメッセージである。クリスマスを迎えるに当って私たちは意味のない儀礼的なプレゼントの交換のみによって，天父から与えられた偉大な賜物を記念するクリスマスの精神をあいまいなものとすることを避けようではないか！　世俗からしばし離れて，主の深い御旨をしみじみと熟考して見ようではないか，そして天父が私たちに一番何を望まれているか考えて見ようではないか！　そうすれば自ずと，今私たちにとってどうすることがベストであるか分るに違いない。「すべて重荷を負うて苦労している者はわたしのもとにきなさい。あなた貴方がたを休ませてあげよう。」と主は言われたが，世の中の人々が求めているものは，まぎれもなくこのキリストの大きな愛であり平安であると思う。クリスマスに当って，この素晴らしいキリストの愛の福音を分ち合うことが出来るように。人々が神を知りキリストを知って天父が最も私たちに望んでおられる永遠の生命を得られるように。「永遠の命とは唯一の，まことの神でいますあなたと，またあなたがたがつかわされたイエス・キリストを知ることであります。

岡町支部献堂式の祈り





十二使徒評議員会会員

エズラ・タフト・ベンソン

天に在しまし、全知にして永遠の我らの霊の父なる神よ、汝の御子、我らが救い主、贖い主、イエス・キリストの御名によりて我らは汝の聖き御座に近づかんとするものなり。聖なる父よ、汝の見給う如く我らは汝の偉大なる王国と教会の会員として、また汝の息子、娘として、建物を奉献するべくこの美わしく新らしき宮居に集いしものなり。

聖なる父よ、今宵、我らの心は喜びに満され汝の与え給いしすべての祝福のために感謝し奉る。我らは福音の回復を感謝し奉る。汝が愛する御子、我らの長兄、イエス・キリストと共に神の予言者に現われ給いしことに感謝し奉る。天使がこの地上を訪れ重要な鍵を回復し神権が回復され、汝の偉大な教会と王国がこの地上に再び設立されしことに感謝し奉る。御父よ！我らは聖書の真実なることと、イエス・キリストの聖き使命がモルモン経を通して新らしく証詞され給いしことに感謝し奉る。福音の成就、すなわち、長い暗黒の夜よりこの地上に回復されし栄光に満ちた救いの教義に感謝し奉る。おゝ御父よ、我らをして救いの偉大な計画の豊かな祝福に与かる者に選びしことを感謝し奉る。ジョセフ・スミスより我らが愛する現代の指導者、デビド・O・マッケイ大管長に至るまで、汝のこの世に於ける御業を導びき管理し続けし高貴なる人々に感謝し奉る。聖なる父よ、汝のこの地上に於ける代弁者として仕えし僕、我らが愛する大管長を祝し給わんことを。願わくは、これから先、幾年月もこの僕を生き永らえさせ給うて、十分に健康を祝し、我らと共にあらんことを。我らは汝の教会の偉大な神権並びに神権定員会とグループ、また聖なる神権の権能の下で聖なる儀式を執り行う忠実なる人々に感謝し奉る。偉大な補助組織に感謝し奉る。我らが母や妻らの手によりて成る偉大なる扶助協会に特に感謝し奉る。扶助協会の人々の生活の潔さと献身的な奉仕、夫及び息子達の神権に対する支持に感謝し奉る。聖なる御父よ、老いたる者にも、若き者にも福音を教える偉大な日曜学校の与えられしことを、また特に汝の教会の若人の間で信仰を築き、文化的活動及び霊的なレクリエーションを遂行する偉大なＭＩＡ(相互発達協会)の与えられしことを感謝し奉る。我らが子供達のために奉仕する偉大な初等協会の与えられしことを感謝し奉る。我らは汝が教会に偉大な教育プログラムの存するを感謝し、天父よ、何卒これらの教育にたずさわる責任を持ちたる人々を祝し給えと祈り奉る。我らは今宵、特に汝の教会のこの偉大な宣教師制度に感謝し奉る。

回復されし福音のメッセージを聞き、それを受けいるる勇気と知恵と信仰を持ち続けし、この偉大な日本の国民の忠実な信仰深き男女を感謝し奉る。御父よ、何卒この偉大な宣教活動を祝し、伝道部、地方部、支部を管理すべく汝に召され給いし人々並びに宣教師達を祝したまえ。彼らに信仰と識別の御霊と勇気と、いつも汝に忠実に奉仕しょうとする決心を与え給え。信仰深い妻とその息子達と共にこの伝道部の管理の業をなすために召されたる汝の忠実なる僕のために祈り奉る。何卒汝がこの家族を助け、祝し、この国民の前に彼らをして偉大たらしめんことを祈り奉る。願わくは、彼らと共に働く人々を祝し給わんことを。　何卒この地に於ける汝がブドウ畑の汝の御業が増々栄え大きくならんことを。聖なる御父よ、我らが今や偉大な万国博覧会のために備えられし地に在るが故に、また汝の教会と王国とがこの万国博にて公開される故に、何千人の上に何千人の人を、更に何千人の何百倍もの人がこの万国博を訪ずれ、汝がこの偉大なる御福音の計画の中に具現化されし汝の哲学を知り、彼らがそれを受ける勇気と真理の証詞を受けらるるためにすべてのことが、よく運ばれんことを祈り奉る。御父よ！それらのことが何卒計画されしままになさるる様、我らを祝し、これを前に押し進める時に、それが偉大な力の源となり、偉大な伝道の媒介となり、多くの人々を真理の知識へと導びく手段となるべく祝し給え。天に在します御父よ、我らはこの美わしき地にて享受出来る自由を心より深く感謝し奉る。選択の権利及び自由を感謝し奉り、この偉大な国の指導者達を祝し給わんことを祈り奉る。何卒彼らが汝に霊感され、汝の御前にへりくだりて、霊感と導きを汝に求むるように祝し給え。我らは今ここに我らと共に在席さるこの市の市長及び市長を助け共に働く職員の方々のために祈り奉る。何卒彼らが祝福されて人々の前にて偉大にならしめられる様、またこの地域に住まう善良な市民の福祉のために大いに貢献すべく彼らが数々の決定をなさるよう、導びかれんことを祈り奉る。

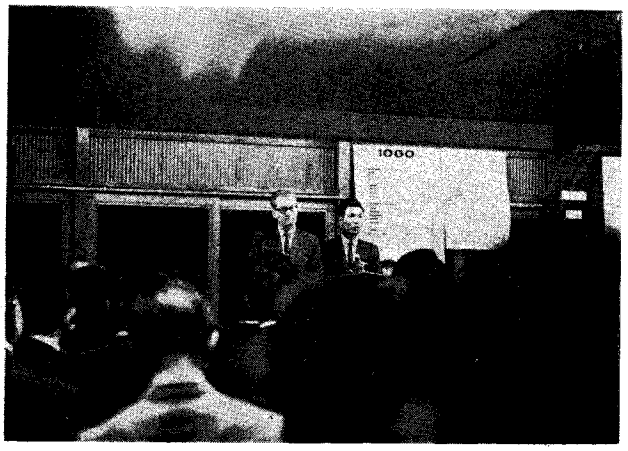
御父よ、我らは特にこの美しき建物の建造のために貢献したる信仰と気力あふれる、男女を感謝し奉る。建築を手伝いし人の中には、教会の会員以外の人もありし故に彼らに感謝し奉る。我らは特にこの建物を建てるために非利己的な奉仕と自分達の持てる時間と能力を十分に使いし汝がブドウ畑の教会員に感謝し奉る。御父よ、特に教会の建築宣教師として奉仕した人々に心より感謝し奉る。願わくは、彼らの必要と希望に応じて報いが与えられんことを、また建築にたずさわりしすべての人々が特別なる祝福を受けられんことを。

何卒汝が天の窓を開きて彼らに祝福をあふるる如く与え給うて、彼らが増々栄え、なを一層、汝のためと、汝の王国建設を助けんがためにそれを使い得るように祝し給え、聖なる父よ、汝の見給うが如く建物は美しく、潔く、そして汝の子供達が使い得るようにすでに完成されたり。御父よ、神聖を汚す様ないかなる悪魔の力もこの建物の敷居をまたぐことのなきように賢明に使われるように、またここに集う人々が汝の御霊の力を感ぜられるように。またここを訪れる人々が霊感と導きと、汝の予言の御霊を受けることが出来るように。また虚偽の教えがこの建物の、この説教壇や、どの部屋からも教えられることのなきように祈り奉る。そして汝の持てる真理のみが汝の子供達に現わされるように。

何卒一致団結と愛と調和の精神及び真の兄弟愛があるように。またこの支部と地方部の教会員達のこの集会に於いて、多くの彼らが友に快い御霊をもたらすことが出来るように祈り奉る。聖なる父よ、この建物が完成されすべて費用も支払われたれば、聖なる十二使徒の職、神の聖なる神権の権能を与えられ、この建物を献堂する権威を与えられしにより、汝の謙遜な僕として今我はこの建物を聖なる目的に使用するために、土台より、かた石に至るまで、あらゆる部分、すなわち壁、床、天井、並びにすべての備品、設備、及びこの土地にあるすべての物を主なる汝に奉献し奉る、汝が我らの謙遜な、ささげ物を受けらるる様に祈り奉る。我らが誠実に、また感謝しつつ、また建物が汝の目にかなうようにと祈りつつ奉献し奉る故に我らの謙遜なささげ物を受けらるる様に祈り奉る。願わくは天災よりこの建物を守り、いかなる危険もやって来てこの建物を破壊せしめることのなきように。そしてこの建物が幾年月にもわたり、ここに建ち、汝の子らの信仰と誠実な愛の現われの記念碑となるように。またこの市及びこの市の周辺に良き影響を与えるように祈り奉る。御父よ、我らはこの建物を神聖なる目的のために御前に捧げ奉る、さらに我らは汝と汝の誓約とに我らの生命を再び捧げ、汝の戒めを守り福音に生き、信仰に真実であり、この建物を建設的に使い、決意を新にして、汝に仕え、我らが証詞を年を経るごとに強くなさんとするものなり。聖なる御父よ、これらの祝福を願い奉り、感謝の気持と共に我らの救い主、贖い主、主イエス・キリストの御名によりて、心よりこの建物を奉献し奉る。　—アーメン—

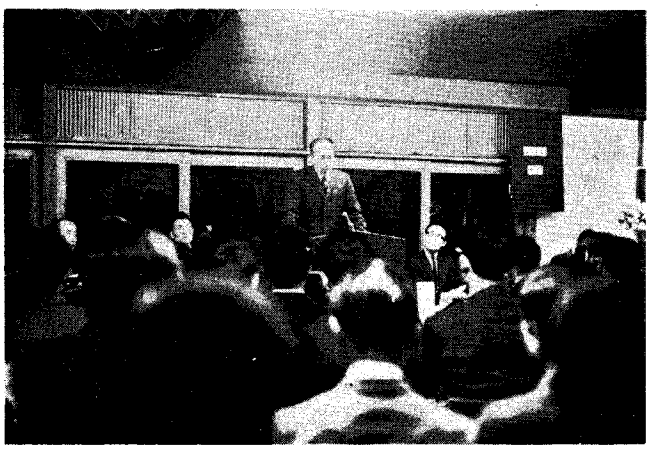
神　権　大　会

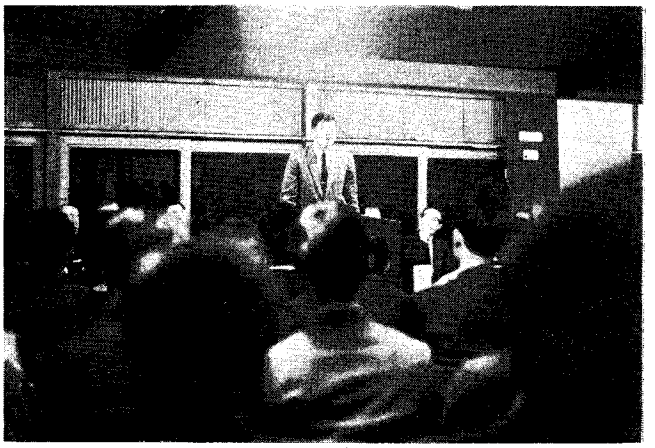
11月８日（土）東京中央支部にて，神権大会が開かれた。伝道，系図，ホーム・ティーチングの状況が発表され，会はそれらの活動を通して得た強い証にみちていた。ビルス部長より新しい伝道所についての説明がなされた。



新伝道所，モルモン経，バプテスマについて語るビルス部長

大神権者の支持





モルモン経を配付して得た証を語る兄弟たち

YWMIA 100年祭記念ダンスパーティー

11月15日　三福会館にて盛大に開かれた。

YWMIA歴代役員

新伝道所開設さる

喜びにみちて、各伝道所へと旅立つ宣教師たち。

その日，イエス・キリストを啓示するために彼らの上に注がるる「慰め主」の施したもうによりてこの能力を授けられたる者たちの口より，あらゆる人々は己が国語と己が言葉にて完全なる福音を聞かん。—教義と聖約90：11—

昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九六九年十二月二十日発行（毎月一回二十日発行）第十三巻第十一号

「わが過ぎ去りし時はいずこ」

リチャード　L. エバンズ

いつも驚くことは，時の移り行く速さと人生の過ぎ行く速さである。「わが過ぎ去りし時はいずこ」と詩人は苦悶している。数週間はただの数時間のように思われる。一日をいかに過しているかを見ると，無駄な時，中途半端な時を費やしていることに驚く。時間をかける価値のないものを，時々見聞きし，ある時は，なんの価値もないものを読み，決して考えたり，書くべきでないことに思いをめぐらす。

アメリカの詩人ロングフェローは尋ねた。「時とはなんぞや。日時計の陰，時計の鐘の音，砂時計の砂の流れか。これらはただ外的なしるしに他ならない。時とは人の生命である。」時，生命，選択——我々は現在まさしく万物の本質であり，これからもまたつねにそうであろう。我々は自身の仕事をする際にも，時と行動の研究を自らなし，前進していくことと単に動いて行くこととの相違に注意を払うべきであろう。時々実際に整頓するのではなく同じ紙の山をあちこちへ置きかえたりするような，同じことを何度も無暗やたらにくり返えすことのないように注意を払うべきである。できること，なすべきことをしないで，同じことをくよくよと心配して同じ問題をくり返したり，あるいは，実際に悔改めや改善の努力をし，教えを学ばずに，同じ性癖，肉欲，悩みと戦うことのないようにすべきである。時の動き，チャイムの響き，人生のなりゆきにまかせて，ただ動いて行くのでは充分ではない。

我々には今なすべきこと，すでになすべきであったことがあるのだ。時短い人生に，なすべきことをなし，学ぶべきを知り，生くべき道に生きる時に，我々に知恵を得させたまえ。また，ただ問題を置き変えたり，あわてふためくのではなく，心に安らぎと目的をもって，悔い改め，改善し，実行して生きる時に知恵を得させたまえ。

聖徒の道
1969年12月20日発行
振替口座　東京16226番
発行人兼編集人　ウォルターR.ビルス
発行所　東京都港区南麻布5－8－10
末日聖徒イエス・キリスト教会　電話（442）7438
印刷所　太陽印刷工業株式会社
定　価　100円
予　約　一年間 1,000円（外国4ドル50セント）
電報受信略号　「トウキョウ」マツジツ